

平成26年度社会福祉法人福浜会事業報告

平成 26 年度の国の動向において、直接私たちに関わってくるものとして挙げられるものは、平成 27 年度からの障害福祉サービス等報酬改定だろう。当法人の施設の事業である生活介護事業の報酬減額がとりわけ大きく、次年度の財政面での影響が懸念される。施設が所属している上部団体である日本知的障害者福祉協会も、厚生労働省との折衝を行ってきたが、厚労省による実態調査の結果、収支差率が高かった当事業が減額の対象となったと推察される。特別支援学校卒業後の日中活動の場である生活介護事業は、在宅福祉の柱とも言える。その意味では、今回の報酬改定には疑問が残る。

また国においては、障害者総合支援法の付則に基づき、昨年 12 月に総合支援法 3 年後の見直しに向けた「障害福祉サービスの在り方等に関する論点整理のためのワーキンググループ」による検討が始まり、すでに障害者団体、関係団体からのヒアリングも実施され、新たな制度改革が進められている。平成 27 年内にはそのとりまとめが行われる予定である。

その他、社会福祉法人制度の見直しについては、社会保障審議会福祉部会で議論されており、案件ごとに下記のとおり実施時期が決まった。

- ① 運営の透明性の確保としての財務諸表、活動状況、経理状況の公表は、平成 28 年度から実施。
- ② 経営組織の在り方については平成 29 年度から実施。具体的には、理事・理事長の義務と責任及び監事の権限、義務、責任を法律上規定、評議員会の必置の議決機関としての位置付けなど。
- ③ 業務運営・財務運営の在り方としては、余裕財産を運転資金・事業継続に必要な財産と余裕財産とに明確に区分した上で、余裕財産を地域公益活動へ再投下することは、平成 29 年度から実施。

以上のような動きとともに、社会福祉法人への課税議論もあった年度であった。今後も、注視していかねばならないことが多いが、基本的な視点として、サービスを利用する当事者の人たちが、その人らしく生きていくために利用しやすい制度を目指した論議であることを期待したい。

一方、法人内のこの一年を振り返って先ず挙げられるのは、松ぼっくりの従たる事業所の施設整備に向けた動きである。現在、一部の自閉症の方たちが活動している場所は仮住まいであり、早急に過ごしやすい環境を整える必要があった。県にもこの地域において必要な施設であることを理解していただき、申請をしたが、今のところ国からの内示が遅れている。

また、重症心身障害のある人たちの現在と将来について、当法人のサービスを利用している方を中心に、9 月にご家族との懇談会を開催し、その思いやニーズに触れる機会を持つことができた。平成 13 年から多くの重心と呼ばれる人たちははまぼうで受け入れてきたが、建物としても設備面でも対応に限界がある。療育や発達の視点からの支援や社会参加に向けた幅広い活動を保証していくには、できるだけ早い時期に、重症心身障害児(者)の方を主たる対象とする施設整備の必要性があり、平成 27 年度にはそれに向けた具体的な動きをしていきたいと考えている。

平成 26 年度 理事会

開催日	出席者数/ 理事総数	議 題
5/24	7 / 7	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成25年度社会福祉法人の市指導監査実施結果（通知）及び是正・改善計画について 2 平成25年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告） 3 松ぼっくり変更届及び運営規程の変更について 4 はまぼう外壁等修繕に係る共同募金会補助金申請について 5 共同生活援助世話人就業規則の改定（宿直手当）について 6 潮の香車両整備に伴う日本財団助成金申請について 7 松ぼっくり作業棟建設敷地の不動産買付申込及び作業棟施設整備について
8/23	7 / 7	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉法人福浜会評議員の選任につき同意を求めることについて
8/23	7 / 7	<ol style="list-style-type: none"> 1 はまぼう外壁改修他内部床等改修工事に係る共同募金会補助金交付決定及びそれに伴う入札手続き等について 2 松ぼっくり作業棟建設敷地の不動産買付申込及び作業棟施設整備の状況について
11/11	7 / 7	<ol style="list-style-type: none"> 1 はまぼう外壁改修他内部床等改修工事に係る入札等の報告及び承認について 2 松ぼっくり作業棟建設敷地の不動産買付及び作業棟施設整備に係る報告及び承認について 3 平成26年度本部及び施設会計の第1次補正予算案について 4 指定特定相談支援事業者及び障害児相談支援事業者変更届出及び運営規程の改定について
2/18	6 / 7	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉法人福浜会評議員の選任につき同意を求めることについて
2/18	6 / 7	<ol style="list-style-type: none"> 1 次期理事及び監事選任の報告並びに次期理事長の選出及び理事長の職務代理者の指名について 2 運営規程の変更について 3 松ぼっくり従たる事業所の土地購入に係る基本財産追加に伴う定款変更について 4 平成26年度本部会計及び施設・事業会計の補正予算案について
3/18	7 / 7	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成26年度本部会計及び施設・事業会計の補正予算案について 2 平成27年度法人及び各事業所事業計画について 3 平成27年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 4 各施設運営規程の変更について

平成26年度評議員会

開催日	出席者数／ 評議員総数	議 題
5/24	15 / 15	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成25年度社会福祉法人の市指導監査実施結果（通知）及び是正・改善計画について 2 平成25年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告） 3 松ぼっくり変更届及び運営規程の変更について 4 はまぼう外壁等修繕に係る共同募金会補助金申請について 5 共同生活援助世話人就業規則の改定（宿直手当）について 6 潮の香車両整備に伴う日本財団助成金申請について 7 松ぼっくり作業棟建設敷地の不動産買付申込及び作業棟施設整備について
8/23	15 / 15	<ol style="list-style-type: none"> 1 はまぼう外壁改修他内部床等改修工事に係る共同募金会補助金交付決定及びそれに伴う入札手続き等について 2 松ぼっくり作業棟建設敷地の不動産買付申込及び作業棟施設整備の状況について
11/11	15 / 15	<ol style="list-style-type: none"> 1 はまぼう外壁改修他内部床等改修工事に係る入札等の報告及び承認について 2 松ぼっくり作業棟建設敷地の不動産買付及び作業棟施設整備に係る報告及び承認について 3 平成26年度本部及び施設会計の第1次補正予算案について 4 指定特定相談支援事業者及び障害児相談支援事業者変更届出及び運営規程の改定について
2/18	13 / 15	<ol style="list-style-type: none"> 1 次期理事及び監事の選任について 2 運営規程の変更について 3 松ぼっくり従たる事業所の土地購入に係る基本財産追加に伴う定款変更について 4 平成26年度本部会計及び施設・事業会計の補正予算案について
3/18	15 / 15	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成26年度本部会計及び施設・事業会計の補正予算案について 2 平成27年度法人及び各事業所事業計画について 3 平成27年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 4 各施設運営規程の変更について

平成26年度はまぼう活動報告

1. 在籍者の状況

はまぼう 平成26年度の定員30名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分	月												合計	
	26年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	27年 1	2	3		
入所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	
	女	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13	
	計	37	37	37	37	37	37	37	37	37	38	38	38	

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月												合計	
	26年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	27年 1	2	3		
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

2. その他の利用状況

区分	月												合計	
	26年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	27年 1	2	3		
養実 護習 等生	人員	0	0	3	0	0	0	0	3	0	1	0	0	7
	利用日数	0	0	15	0	0	0	0	12	0	4	0	0	31
実研 習修 ・生	人員	0	2	2	2	4	4	6	8	3	2	3	1	37
	利用日数	0	6	8	2	12	14	14	10	7	8	14	2	97
見学 者	件数	1	0	1	2	0	0	1	2	1	0	1	0	9
	人員	3	0	2	8	0	0	1	4	6	0	3	0	27
ボテ ライ ンア	延人数	27	24	21	27	24	35	44	38	30	34	47	53	404
	特記													

3. 活動の状況

活動全般について

はまぼう・あにまあとでは、自分がやってみたいと思う活動を、所属するグループにこだわらずに選択する方法を採っている。新たに通所された方のニーズ等も考慮し、できるだけご本人の意向に沿うプログラムを実施してきた。作業やレクリエーション活動を通して、活動参加の楽しさや仲間作りも意識しながら実施してきた。

重心多機能事業あにまあとでは、身体機能保持のためのふれあい体操、二人のリフレクソロジーによるリフレクソロジーを実施したが、感覚刺激であるスヌーズレンについては、時間的な問題や職員配置の関係等から、その目的を果たせなかったことは否めない。また放課後等デイサービス事業においては、発達に視点を置いた障害児療育の在り方という点では、経験不足の面もあり、今後は、教育・医療の関係者とも連携を図りながら、一人ひとりに適した活動・療育を心掛けていく必要性を感じた。

今年度も、利用者さんの希望を取り入れながら、土曜日にレクリエーション活動を実施。職員による工夫も見られ楽しい時間を過ごせた。スカイハウスの日陰を利用し、夏場の暑い時期に日陰で流しそうめんを楽しんだり、水遊びをするなど、季節に合った活動を実施することができた。

施設でのグループ活動や個別体験なども、工夫をしながら取り組むことができた。個別体験は、個別面談時にご本人・家族と相談し、その希望を個別支援計画に記載し実施することができた。また本人会であるはまちゃん会も、クリスマス会や豆まきなどの行事を計画・主催した。

健康面では、医療的なケアが必要な重心の方だけでなく、50歳を過ぎ体調に変化が出てきた利用者さんがでてくるなど配慮が必要になってきている。主治医や協力医との情報交換の重要性が増している。家庭との密接な連絡体制をとっていきたい。

4. グループ活動報告

らでいっしゅ

グループの主な作業活動は、受注作業・縫製等の自主製品・アルミ缶リサイクル・園芸・外部作業を中心にぼぷりん工房・ふぁーれ・オズグループと3つのグループに別れ行った。外部作業以外はグループのメンバーにとらわれず、利用者さんのやりたい作業を選択し、行っていった。

(1)ぼぷりん工房

① 注作業

ブリヂストンのキャップ分離作業を行う。作業を2工程に分け、それぞれが出来る工程を担当した。必要な利用者さんに対しては補助具を使用するなどして、利用者さんが自分で出来ることで自信にも繋がっていった。また、昨年からはじめたLD塗装下キャップ清掃作業（ブリヂストン）も細かい作業であるが、利用者さんに合わせた補助具作るなどし、少しずつやる事が出来た。

②さをり織り

さをり織りは個性を大切にしている為、利用者さんが縦糸・横糸の選択、織り方まで本人に任せることでオリジナルの作品を作ることが出来た。織りあがった布は縫製作業によって製品化し、同じものがひとつと無いオリジナルのさをり織りは好評を得ている。

③縫製

さをり織りで織りあがった布の個性を生かせるように考え、携帯入れや巾着・ふくろう根付などの製品に仕上げていった。トートバック・ポーチ・ペンケースなどの製品については、ボランティアさんの協力も頂いた。

また、作る物や生地・ボタンの色を利用者さん自身に選んでもらうことで、自分で仕上げた達成感を味わうことや、製作意欲の向上にもつながった。

④クリスマスツリー

スプレーで色塗りをする担当・飾り付けの担当と利用者さんが別れ、それぞれ個性のあるツリーを楽しみながら仕上げる事ができた。

⑤印刷

パソコンが得意な利用者さんが年賀状作りを行った。今年度はパソコンやプリンターのトラブルも無く、短期間で仕上げる事が出来た。利用者さん自身が考えながら自信をもって実施することが出来た。

(2)オズグループ

① アルミ缶リサイクル

毎週月曜日福田地区内を缶回収に廻り、缶つぶしを行った。毎週火曜日や缶が溜まった時に缶運搬を実施。より買い取り金額の高い業者へ缶の運搬を行った。利用者さんの活動としてはプルタブ取り、缶つぶしに作業工程を分けた。缶つぶしはさらに屋外の足踏み式と室内の手動式の缶つぶし機でグループ分けをしたことで作業に幅ができた。

②園芸・畑

11月～1月の間、県庁玄関等に飾る30鉢のプランター作りをメインとして実施。グリーンバンクで頂いた種を育て苗作りを行った。県庁への納品・回収も利用者さんで行い通常とは違う活動で楽しむことが出来た。

野菜作りはボランティアさん主体で、さつま芋・玉葱を作り、利用者さんと収穫。採れた野菜は販売したり、みんなで焼き芋をして楽しんだ。

(3)ふぁーれ

請負作業の工程も一人ひとり定着してきたため、作業の進み具合が早くなった。個々に行う数もたくさんできており、ミスも少なくなってきた。ほりずみ内職が無いときや、早く内職が終わってしまったときに、代わりの作業として、オズグループと協力し、缶回収や缶運搬を行った。また新しい請負作業（シートカバーの袋詰め）も行うことになった。工程も何通りかあるため、出来る工程をそれぞれが意欲的に取り組む様子がみられた。

(4)外部作業

①コーケン工業

法人内施設利用者6名で、磐田市竜洋にある工場に通い、部品の組み立て作業（金具にゴムをはめる作業）を行っている。

約7年目になるが、仕事にも慣れ、作業内容もほぼ固定されているので、仕事のスピードも上がり、分量も増えてきている。新しい部品も増え、難しい工程もあるが、一人一人が責任を持ちながら作業に取り組むことができています。

②於保老健施設・さくらの苑

各施設とも週1回、シーツ交換を行ってきた。それぞれが協力し合いながら、仕事に取り組んでおり、スムーズにシーツ交換ができるようになった。大きな失敗やミスもなく、一人一人がきちんと仕事をしているという意識を持って取り組んでいた。

さくらの苑については、新しく2名の利用者さんが参加し、計5名で行うことになった。困った時には職員に聞きながら皆で協力をして取り組むことができています。新しい利用者さんが参加することで職員が付き添いを行っているが、いずれは職員が付き添わず行えるようにしていきたい。

(5)販売（ぽぷりん工房・オズグループ）

出来上がった製品・野菜等は、地域のバザー、アプレゲール、お茶の山大園、iプラザで販売した。地域との関わりを深めるためにも作品展覧会などに積極的に出展することで、意欲的に製品作りができた。地域のバザーでは、さをり織りの携帯・スマートフォン入れは好評で、ぽぷりん工房の看板製品となっていた。野菜等も地域のバザー等で好評であった。

その他の活動について

(1) グループ活動

<朝・帰りのミーティング> (ぼぷりん工房・オズグループ)

- ・ 進行は曜日ごとに当番を決め、利用者さんが主体となり、やる気をもって行えた。
- ・ ミーティング後にラジオ体操を実施し、体を軽く動かすことで作業活動にスムーズに移ることが出来た。

<グループ活動>

- ・ オズグループとふぁーれは合同でグループ活動を行い、浜名湖花博や浜岡原子力館・浜岡砂丘へ行き、お弁当を食べながらのんびりと過ごすことができ、楽しめた。秋の収穫シーズンには、畑で収穫したさつま芋で焼き芋パーティーを実施し、皆で楽しむことが出来た。ぼぷりん工房では、浜名湖花博や風のマルシェへ行き、レストラン等で昼食やデザートを注文し、満足できた様子であった。外部作業（コーケン工業）では、フラワーパーク・うなぎパイ工場への見学に行くなどして楽しんだ。
- ・ 宿泊体験は3グループに分かれ、それぞれの希望にあわせ、活動することが出来た。

(2) スポーツ等の個別活動

高齢になってきた利用者さんもおられる為、スポーツ体験に限らずに料理作りなどの生活体験を含めた活動を、少人数で個々の希望に合わせ、相談しながら実施した。それぞれの利用者さんが体を動かしたり、日頃出来ない生活体験をする事が出来た。（希望者のみ実施 実施状況 表1 他グループと協同実施も含む）

(3) 個別体験

本人の希望等で外出先を決め出掛けた。他のグループとも協力し合いながら行い、それぞれの希望したものや体験させたい外出が実施出来、楽しめた様子であった。（希望者のみ実施・実費徴収 実施状況 表2 他グループと協同実施も含む）

表1. 個別活動

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者人数	職員人数
6月10日(火)	寄せ植え体験	1名	1名
8月 8日(金)	プール (竜洋B&G)	5名	3名
8月26日(火)	プール (竜洋B&G)	2名	2名
10月 9日(木)	マレットゴルフ (御前崎市)	2名	2名
1月28日(水)	ボーリング (袋井グランドボウル)	7名	3名
3月 5日(木)	ウォーキング (竜洋海洋公園)	2名	2名
3月 9日(月)	料理作り (たこ焼き)	2名	1名
3月10日(火)	サイクリング (竜洋海洋公園)	1名	1名
3月10日(火)	デザート作り (ホットケーキ)	3名	1名
3月10日(月)	デザート作り (ホットケーキ)	2名	1名

表2. 個別体験

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者人数	職員人数
6月10日(火)	浜名湖花博 (浜松フラワーパーク)	3名	2名
8月29日(金)	ポリショイサーカス (浜北区内)	3名	2名
11月14日(金)	浜名湖パルパル (浜松市西区)	3名	2名
11月18日(火)	ニコエ (浜北区内) 食事 (磐田市内)	3名	2名
11月20日(木)	名古屋港水族館	3名	2名
2月27日(木)	ぼんぼこツアー (河津桜)	4名	3名
3月11日(水)	あらさわふるさと公園 (御前崎市)	1名	2名

カラース

概 要

はまぼう

利用者数 18名 (生活介護利用者17名、日中一時1名)

<車椅子11名 うち全面介助者8名、胃瘻造設・経管栄養・気管切開・気切及び口腔吸引・呼吸器管理1名、胃瘻造設・経管栄養1名、胃瘻造設・経管栄養・鼻腔及び口腔吸引1名、気管切開・経管栄養・鼻腔及び口腔吸引・気切部吸引1名、気管切開・気切部吸引・経管栄養・酸素管理1名>

グループの主な作業活動は、パン作り・菓子作り、クッキー作り・紙工芸・粘土細工を中心に、カラース・工房ぱおの2グループに分かれて行った。

(1)カラース

[1]活動のまとめ

重複障がいのある利用者さんを中心に、感覚・色彩等を感じる事の出来る作業を多く取り入れながら、体調に留意しつつ無理のない範囲でグループの皆が協力し合える活動を行った。

[2]主な作業内容 ～ クッキー作り・紙工芸・粘土細工 (小麦粉粘土) ・手芸品

①クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、バザー等での販売、バレンタインデーやホワイトデー等、季節に合わせてご家庭に向けて注文販売も行った。利用者さんの活動ペースに合わせる事が難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動できたと思う。

a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は主に重複障がいを持った利用者さんが行った。生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平らにするが、程よい厚みで出来る様になった。型抜きを自分の仕事として前向きに取り組む利用者さんの姿もみられたが、厚みにばらつきもあり注意を促しながら進めた。

c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して、利用者さんを中心に職員と一緒にいった。袋綴じは職員の声掛けで確実にすることが出来た。

透明な袋に飾りリボンは見た目にも良く好評であった。飾りリボンを作る作業ができる利用者さんがいて、仕事の幅が広がり喜びとなった様である。

②紙工芸

色彩を感じることの出来る作業を行うために折染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った葉とセットで販売。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートやメモ帳、爪楊枝入れ、グリーティングカード、壁掛け、ペン立てを販売した。

折染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、利用者さん一人で行うのは難しく、大半の人が介助や確認を必要としていた。

紙工芸製品はバザー等で幅広い年齢層の方に購入してもらう事が出来た。

③粘土細工

マグネット製品を中心に製作した。動物や野菜・花・食べ物など身近な物の形をマグネットに貼り付け販売しており子供さんに好評である。小さな細工を利用者さんが作ることは難しいが、職員と一緒に、指先や手のひらで平らにしたり丸めたりし、作る楽しさを味わえた。

④タオルたたみ

袋井整体さんから依頼されているタオルの洗濯とたたむ仕事も定着してきている。枚数が多く、利用者さんは乾いたタオルをたたむ工程のみの関わりになっているが、タオルの感触や仕事の充実感を感じている様子がみられた。

職員体制が変更になったことにより、平成27年1月で終了をした。

[3]その他の活動

①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をしたり、その日の反省・感想等を話してもらう様にした。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増え、カラース以外の活動にも積極的に参加する姿もみられた。

②散歩・外気浴・足浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。利用者さんの数に対し職員の数が少ないため、車椅子利用者のマンツーマン対応が必要となる散歩は一度に全員が出ることは難しく、短時間の交代で出ることとなった。また長い時間外気にあたる疲れしてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませたり室内で待っている事もあった。又、歩ける利用者さんが車椅子を押すなど、他グループの利用者さんとの関わりもあり仲間意識の向上が見られた。

冬季は車椅子利用者さんを中心に、足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。鼻歌がとび出す利用者さんもあり、皆喜んでいた。

③レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞いたり、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んでいった。普段あまり体を動かす機会の少ない人たちが多いため、ペットボトルボウリングやトランプ・百人一首（坊主めくり）・すごろくゲームなど室内でも楽しめることを行った。音声を楽しむCD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながら楽しむことが出来た。

④外出・外食・納涼会

ボランティアさんの協力を得ながら行なった。

納涼会はグループの恒例行事となっている。夕食のカレー作りや花火など夜までの活動であるが、事故もなく皆楽しそうに参加出来ていた。納涼会の延長を利用し、重心利用者さん2名の宿泊を実施した（はまぼうにて）。

実施日	内容（行き先）	参加利用者	職員
6月13日（金）	グループ外出 竜洋海洋公園（磐田市）	11名	8名
8月12日（火）	納涼会・宿泊	2名	2名
3月13日（金）	食事会		

⑤個別外出

実施日	内 容（行き先）	参加利用者	職員・ボラ
7月31日（木）	豊橋総合動植物園のんほいパーク（豊橋）	2名	2名
2月20日（金）	豊橋総合動植物園のんほいパーク（豊橋）	2名	2名
2月24日（火）	アクティ森（草木染めと食事）（森町）	4名	2名（ボラ1）
3月9日（月）	ららぼーと磐田（映画&食事）（磐田市）	2名	2名

⑥ふれあい体操

月2回、スポーツグラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。リハビリを兼ねたゲームや工作は利用者さんが楽しんで参加することが出来た。職員は、利用者さん個々の障がい程度に合わせた体操の仕方や注意点等を教えてもらい対応した。

⑦リフレクソロジー

毎週1回、1回に3人（一人約30分）リフレクソロジストによる足裏マッサージ（施術前には足浴を実施して足を温めておく）を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

⑧食 事

個々に食べやすい形容を探り、刻み食（みじん切り・小口切り）の対応をした。

(2)工房ぱお

[1]主な作業内容

①パン作り

- ・各利用者さんが「買出し」「計量」「粉ふるい」「袋入れ」「販売」等に取り組んでいる。
- ・現在、15、6種類を作成。
- ・定期販売 火 … 第2、4週→磐田市役所販売 第3週→福田支所販売
水 … 第1週以外→喫茶ペンギン（iプラザ内）
木 … はまぼう・そるとぽっと販売
- ・各種バザー、地域交流会にも出品した。

②菓子作り

- ・一人ひとりが、作業の手順を覚え、自分の得意分野を主に担当しながら作業できていた。また、新たな作業工程にチャレンジした利用者さんも数名見られる。シーラーによる「袋しめ」は、職員と声を掛け合いながらであるが、袋入れは、ほとんどの利用者さんが一人で行なうことができています。また、袋の準備（シール貼り・スタンプ押し）も以前よりスピーディーに仕上げられるようになっている。

「クッキー」「パウンドケーキ」「マドレーヌ」「シフォンケーキ」「ブラウニー」「くるみとレーズンのカップケーキ」「コーヒーちょこマフィン」「チョコチップマフィン」

「黒ごまプリン」「レアチーズケーキ」「ゼリー」(夏季限定)

「スイートポテト」「ガトーショコラ」(秋冬限定)

・各種バザー、地域交流会での販売を行なった。

② 職（ブリヂストン・シートカバーの袋詰め）

自分たちで協力しながら作業を進めることができ、昨年より「準備や片付けをする」という意識も強くなって積極的に取り組むことができるようになった。

[2]その他の活動内容

個別外出

グループの方同士でなく、他のグループの利用者さんや職員とでかける人もあり、普段とはまた違った楽しい外出となったように思われる。

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者	職員・ボラ
4月11日(金)	大井川鉄道SL乗車体験&花見 (島田市)	2名	2名
8月29日(金)	ポリショイサーカス (浜北区内)	3名	2名
2月24日(火)	アクティ森 (草木染めと食事) (森町)	4名	2名(ボラ1)
2月27日(金)	ぽんぽこツアー (河津桜) (河津町)	4名	3名
3月9日(月)	ららぽーと磐田 (映画&食事) (磐田市)	2名	2名

グループ活動

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者	職員
7月18日(金)	外出 浜松エアパーク (浜松市西区)	5名	2名
8月8日(金)	プール体験 竜洋海洋公園 (磐田市)	5名	3名
8月12日(火)	納涼会		
3月13日(金)	外出 二コエ&食事 (浜松市北区)	6名	2名

5. 土曜日レクリエーション

土曜日の通所日を利用して、レクリエーション的活動を、年間8回行った。

工作活動やお菓子作り、参加者全員と一緒に楽しめる企画が多く、利用者さんの笑顔や笑い声が印象的であった。

日 付	内 容	日 付	内 容
5/10	わらび餅作り	8/23	流しそうめん
6/21	壁飾り作り	11/22	ミニ運動会
8/2	水遊び	12/20	お菓子作り (ホットケーキ)
8/9	水遊び	1/17	書道

6. 行事・バザー報告

はまぼう 平成26年度年間行事・バザー表

H27.3.31

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会(1)	鈴木千						
5	地域交流会(17)	◎坂本、辻堂 古川(鈴木千) ボランティア係:伊部	○ ○		ヤマハジャンボリー(25) 磐田北高校文化祭(31)	酒井 伊能	○ ○	○ 呼びかけ
6	大掃除(4)	環境美化委員会	○					
7	開所記念日(1)	伊藤・酒井(高橋)						
8					出雲殿人形供養祭(29)	鈴木千		
9	ウォーキング(13)	伊能、加藤	○		出雲殿福田葬祭展(5)	辻堂		
10	地域清掃	環境美化委員会						
11	ふれあい作品展(29) 自動車総連運動会(9) ヤマハ労連観劇(28) 大掃除(29)	辻堂【そ・松】 酒井 古川 環境美化委員会	○ ○		フェスティバル豊田(2) 光る子まつり22) 浅羽夢広場() ふくでふれあいまつり(23)	古川 坂本【そ】 【松】 小澤さん依頼 本田【松】	○ ○ ○	○ ○ ○
12					施設製品即売会(5)	橋本+【そ】		
1	新年会・成人を祝う会(6) 個別面談	伊能・橋本						
2	個別面談	各G						
3	年度納めの会・感謝の集い(6) 個別面談	ボランティア係			ワークピア祭りバザー不参加 (軽トラ市)			
《備考》 ・グループ活動: 外食、外出等随時実施。(ボランティアさん参加) ※料理作り・スポーツ;各活動グループ毎に随時実施。 ・個別体験;個人の希望に沿って時期・場所等を設定。					《毎日販売》 ・アプレ・ゲール ・お茶の山大園 《その他販売》 ・はまぼう販売 ・ドルチェ倉庫販売(3.6.9.12月)			

7. 音楽活動

(1)音楽療法

2グループに分かれて月に一度ずつ音楽療法士が中心となり実施。個々の障がいに合わせて工夫がなされており、参加者は自分で選んだ楽器を使ってリズムや音を感じたり、ハンドベル演奏・歌・ボールや体を動かすリトミックなど、音楽を通して普段の活動では味わうことのできない体験を楽しんでいた。

(2)ともしびコンサート

音楽活動をしているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽(歌)や楽器に親しむ機会を設け、室内コンサートを開催していただいた。童謡からクラシックまで幅広い音楽に触れられる機会、参加者は演奏を聴いたり皆で歌ったり、楽しく過ごすことができた。

8. 環境美化委員会

- (1) 2カ月に1回の委員会は、開催できないときもあったが、今年度は合同の委員会を開催することができなかったが、それぞれ各施設の問題点・改善点などを話し合うことができた。細かい点についてはもう少し話し合いを行い、再確認をしていく必要があった。

日頃の環境美化については、職員一人一人が意識して取り組めるよう、委員を中心に呼びかけをしていく必要がある。また、室内、倉庫などの整理整頓も日頃から心がけていく必要がある。

毎日の清掃については、職員一人一人が、美化につとめ、協力しながら行う事が出来ているが、細かい部分については、引き続き呼び掛けを行い周知徹底をしていく必要がある。

(2) 大掃除については、年度始めにアンケートをとり、希望日に合わせ参加の呼びかけをした。家庭へのお知らせや準備、事前に担当場所等を知らせたことで、戸惑う事なく進めて行くことができた。

今年度は、夏季・冬季大掃除を水曜日に実施した。それぞれ協力しあい、全体的にスムーズに行う事ができた。

(3) ゴミの分別については、徹底されつつあるが、まだまだ曖昧なところがある。また今年度からは、ゴミの分別が一部変更になった為、ゴミ処理についても再確認し、より細かい部分にまで注意が行き届くよう、伝えていく必要がある。また、クリーンボックスを設置することで、大きなゴミの処理もスムーズに行うことができた。

9. 安全委員会

(1)利用者の方の安全確保

- ・ 委員会内での話し合い、事故防止・再発防止策検証チェックを行い、事故防止に努めるよう情報収集、安全管理体制の見直しを行った。
- ・ 「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計・活用。

(2)防災

- ・ 避難訓練を毎月1回、避難訓練計画に合わせて実施。
- ・ 法人全体で防災内部研修の実施や緊急時安否確認名簿作成・配布を行った。
- ・ H23年度より、各施設・事業所の防火管理者による防災担当者会議を開催し、大規模災害時の対応等について協議を重ねるとともに、発電機、MCA無線機などの備品等の整備を実施。

(3)施設設備（環境）の保全管理

- ・ 設備自主検査を9月、3月に実施。
不具合箇所 … 詳細については、建物・設備等点検結果表ファイル参照。

(4)安全運転管理

- ・ 春、秋の安全運転管理協会の街頭指導に参加。
- ・ 安全運転管理協会の事務局だよりの連絡。

(5)緊急事態への対応

- ・ 緊急事態（車両等の事故）に対しては、各職員がマニュアルに従い、速やかに対応出来ていた。
- ・ 今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

10. 生活・保健衛生委員会

(1)健康診断及び記録について

健康診断は春と秋に実施。検査当日の欠席者については、レントゲン撮影は個々にかかりつけの病院等へ行き全員実施した。検尿・検便は随時はまぼうで行い、保菌検査は職員、クッキーやパン作業に関わる利用者さん、食事介助に関わるボランティアさんにも毎月実施した。

血圧については、健診当日は慌しさの影響を受け正しい数値が測定できない場合もあるため日を改め測定した。

健康診断の結果については、嘱託医に確認・捺印を頂き各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。（通院については家庭にお任せした。）

記録については、個人表、一覧表、嘱託医訪問記録、検査結果等、随時記入するようにした。

服薬は変更があったら随時書き換え記録するようにした。

(2)体重測定について

毎月月初めに実施した。連絡帳に体重表（カード）をはさみ、家庭に連絡し確認印をいただいた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。

(3)機関誌について

保健だよりは、必要に応じて随時《お知らせ》として発行した。

ノロウィルスやインフルエンザについては、緊急のお知らせ（情報公開や予防法）等を各家庭に配布し、注意を呼びかけた。

(4)衛生面について

身だしなみについては、連絡帳等で家庭と連絡をとり対応している。徹底されつつあるが、改善の必要な人がいるので、引き続き本人や家庭に働きかけをしていく。

ハンカチ所持を呼びかけていることで個人での所持率は高まったが、今後も声掛けが必要。

トイレでのスリッパへの履き替えが定着していない人もいるので、今後も対策が必要。

寝具については布団、毛布の天日干しがあまりされていなかった。

(5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザの予防のため外から帰った時や、食事の前にうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。そのため職員が率先して行なう姿勢が多くみられた。

ノロウィルスに関して汚物処理のための消毒薬(3ヶ月ごとの交換)の留置、週一回施設内の消毒薬での拭き掃除を徹底した。

部屋の換気や加湿器の使用を心がけ衛生面に注意した。

感染症についての職員研修を行い、施設内での感染予防を促した。

(6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

(7)日用品・医薬品について

トイレットペーパーやボックスティッシュ等、在庫確認の上、随時発注するようにした。医薬品については、使用期限の確認と在庫チェックの上、必要に応じて発注・補充した。

個人で昼に服薬がある利用者さんについては、服用の確認と声掛けを行った。

(8)着替えについて

最近では、利用者さん一人ひとりが自分の着替えを持ってきているため、ほとんど貸し出すことはなかった。

(9)歯磨き・うがいについて

各自で食後の歯磨きやうがいを行っていたが、全員が出来ているわけではない。うがいのできない利用者さんもいるが、食後にお茶を飲むだけでも良いと思う。

仕上げ磨きについても習慣づけられている利用者さんはいるが、全員に目が届いているわけではないため、今後も声掛けをしていく。

11. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織（人権擁護・虐待防止委員会）を設置。今年度は4回の会議を経て、研修担当者との協力をし、合同研修会にて利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知を図った。会議では、合同研修会での内容検討、次年度の計画についての話し合いを行った。利用者さんの安心、安全と人権擁護の観点から、適正な支援が提供され、利用者さんの自己実現と社会参加のための支援を妨げることはないよう、定期的にまたは適宜、委員会を開催し、虐待の防止に努めていく。

まだ、今年度発足したばかりの委員会のため、具体的な活動内容等については確立していない。研修会、会議の中で職員の意識の向上を図るとともに、苦情解決担当者や安全委員会、研修担当者等と連携しながら、組織として質の高い支援を提供できるよう努めていく。

12. はまちゃん会（利用者本人会の代表者会）

主に土曜日の通所日を利用して10回開催した。

恒例となったはまちゃん会主催でのクリスマス会や豆まき会もスムーズに企画・実施する事ができ、利用者さんの自信や楽しみにつながった。

第1回 4/27(土)	今年度の計画	第6回 12/18(土)	クリスマス会
第2回 5/24(土)	地域交流会の感想・意見交換会	第7回 1/10(土)	豆まき会について
第3回 9/13(土)	意見交換会	第8回 1/24(土)	豆まき会
第4回 11/1(土)	クリスマス会について(その1)	第9回 2/14(土)	豆まき会の反省
第5回 11/29(土)	クリスマス会について(その2)	第10回 3/28(土)	今年度の反省

13. 内部研修

水曜日午後の時間を利用し、年間計画に従い研修担当者で起案を立て内部研修を実施した。

平成26年度は、法人全体研修5回（感染症対策1回、法律・制度について1回、自己評価・虐待防止について1回含む）実施した。地域生活支援・放課後等デイサービスとの兼ね合いもあり、職員全員参加は難しかったが、第5回については開所日の就業時間後に行ったため、世話人・ヘルパー含め多くの職員が出席できた。

また今年度より、人権擁護・虐待防止委員会が発足したため、虐待防止についての法律や委員会の今後の動きについて全職員が周知できるような研修も行った。内部での出張報告については、今年度1回のみの実施であった。出張で学んだ内容を職員間で共有できるよう、来年度は定期的に研修を実施するとともに、職員の意欲向上に努めていきたい。

日付	内容	担当者
7/9	地域療育・計画相談・グループホーム・地域生活支援事業の事業報告、理想の職員像について 理事長の話 (合同研修会)	研修担当
8/27	GHでの嘔吐・下痢症について 感染症(インフルエンザ、ノロウイルス等)について 理事長の話 (合同研修会)	生活保健委員会 研修担当
9/3	虐待防止法・差別解消法・権利条約について 事例検討(グループワーク) 理事長の話 (合同研修会)	研修担当
11/5	地域生活支援事業について 理事長の話 (合同研修会)	研修担当
12/3	出張報告	研修担当
3/28	自己評価について、人権擁護・虐待防止委員会より 虐待防止をテーマにグループワーク 理事長の話 (合同研修会)	人権擁護・虐待防止委員会 研修担当

14. 相談・福田チーム検討会

施設等で受ける相談については、相談支援専門員・リーダー・地域生活支援担当者を中心に、磐田市、袋井市等の委託相談事業所などの関係機関と連携をとりながら実施している。内容は、通所に関する相談・学齢児の長期休暇時や放課後の支援の相談・進路相談、在宅者への支援等。法人内のサービスに直結するものでないケースは、地域療育支援センター事業として実施。

また福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)に参加。地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっている。

15. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会(専門部会)をもって構成されている。この参加者については、今年度も法人全体で担当職員を決めている。

作業部会(精神部会、知的・身体部会)及び「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」「重心部会」「防災部会」の各専門部会、そして「グループホーム」「ショートステイ」「相談支援事業から見える在宅支援」「余暇支援」「自閉症・行動障害」の課題別検討会に参加。

この内、「重心在宅支援専門部会」、「防災部会」そして「地域生活支援専門部会」とその中の課題検討会である「グループホーム」「自閉症等在宅支援部会」の担当を福浜会が受けている。

また、今年度「重心部会」は、東遠地区と合同の中東遠圏域自立支援協議会「重心部会」としてもその役割を担うこととなり、福浜会が中遠地区の事務局となった。圏域スーパーバイザーや相談支援事業所と協力して、医療・教育等の関係者とともに在宅支援サービスの充実に向けた取り組みをしていくこととなった。

16. 重症心身障害児(者)の在宅支援に関する会議

重心ネットワークは、はまぼうがまとめ役となり、今年度は、中東遠地区ネットワーク会議を開催。今回は、医療関係者を中心に進め、福祉(相談支援、施設)・当事者団体だけでなく、教育・行政の方々にも参加していただくことができた。次年度も、福祉・医療・教育・当事者団体・行政機関に声を掛け、在宅支援サービスの充実に向けた取り組みをしていきたい。

参加している会議

- ・静岡県重心在宅支援重心ネットワーク会議
- ・浜松重心子ども支援ネットワーク
- ・静岡県主催：「重症心身障害児(者)在宅支援推進連絡調整会議」
 - 「重心看護従事者養成研修」
 - 「重心介護従事者養成研修」
 - 「重心ケアマネジメント従事者養成研修」

平成26年度あにまあと活動報告

1. 在籍者の状況（契約者数）

月 区分	26年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	27年 1	2	3	合 計
生活介護	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
児童発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
放課後等	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	20	

生活介護

利用者数 5名（重心多機能型利用者5名）

＜車椅子5名のうち全面介助者5名、気管切開・ネブライザー吸入・経管栄養・NGチューブ・EDチューブ留置1名、口腔吸引1名、経管栄養1名＞

[1]活動のまとめ

感覚・色彩等を感じる事の出来る作業を多く取り入れながら、体調に留意しつつ無理のない範囲でグループの皆が協力し合える活動を行った。

[2]主な作業内容 ～ クッキー作り・紙工芸・粘土細工（小麦粉粘土）・手芸品

①クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、バザー等での販売、バレンタインデーやホワイトデー等、季節に合わせてご家庭に向けて注文販売も行った。利用者さんの活動ペースに合わせる事が難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動できたと思う。

a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は主に利用者さんが行った。生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平らにするが、程よい厚みで出来る様になった。

c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して行った。

透明な袋に飾りリボンは見たいにも良く好評であった。

②紙工芸

色彩を感じる事の出来る作業を行うために折染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った葉とセットで販売。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートやメモ帳、爪楊枝入れ、グリーティングカード、壁掛け、ペン立てを販売した。

折染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、利用者さん一人で行うのは難しく、介助や確認を必要としていた。

紙工芸製品はバザー等で幅広い年齢層の方に購入してもらう事が出来た。

③粘土細工

マグネット製品を中心に製作した。動物や野菜・花・食べ物など身近な物の形をマグネットに貼り付け販売しており子供さんに好評である。小さな細工を利用者さんが作ることは難しいが、職員と一緒に、指先や手のひらで平らにしたり丸めたりし、作る楽しさを味わえた。

④タオルたたみ

袋井整体さんから依頼されているタオルの洗濯とたたむ仕事も定着してきている。枚数が多く、利用者さんは乾いたタオルをたたむ工程のみの関わりになっているが、タオルの感触や仕事の充実感を感じている様子がみられた。

職員体制が変更になったことにより、平成27年1月で終了をした。

[3]その他の活動

①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をしたり、その日の反省・感想等を話してもらう様にした。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増え、あにまあと以外の活動にも積極的に参加する姿もみられた。

②散歩・外気浴・足浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。利用者さんの数に対し職員の数が少ないため、車椅子利用者のマンツーマン対応が必要となる散歩は一度に全員が出ることは難しく、短時間の交代で出ることとなった。また長い時間外気にあると疲れてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませたり室内で待っている事もあった。又、歩ける利用者さんが車椅子を押すなど、他グループの利用者さんとの関わりもあり仲間意識の向上が見られた。

冬季は車椅子利用者さんを中心に、足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。

③レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞いたり、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んで行った。普段あまり体を動かす機会の少ない人たちが多いため、ペットボトルボウリングやトランプ・百人一首（坊主めくり）・すごろくゲームなど室内でも楽しめることを行った。音声を楽しむCD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながら楽しむことが出来た。

④外出・外食・納涼会

ボランティアさんの協力を得ながら行なった。

納涼会はグループの恒例行事となっている。夕食のカレー作りや花火など夜までの活動であるが、事故もなく皆楽しそうに参加出来ていた。納涼会の延長を利用し、2名の宿泊を実施した（はまぼうにて）。

実施日	内容（行き先）	参加利用者	職員
6月13日（金）	グループ外出 竜洋海洋公園（磐田市）	11名	8名
8月12日（火）	納涼会・宿泊	2名	2名
3月13日（金）	食事会		

⑤個別外出

実施日	内容（行き先）	参加利用者	職員・ボラ
2月20日（金）	豊橋総合動植物園のんほいパーク	2名	2名
2月24日（火）	アクティ森（草木染めと食事）（森町）	4名	2名(ボラ1)
3月9日（月）	ららぽーと磐田(映画&食事)（磐田市）	2名	2名

⑥ふれあい体操

月2回、スポーツグラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。リハビリを兼ねたゲームや工作は利用者さんが楽しんで参加することが出来た。職員は、利用者さん個々の障がい程度に合わせた体操の仕方や注意点等を教えてもらい対応した。

⑦リフレクソロジー

毎週1回、1回に3人（一人約30分）リフレクソロジストによる足裏マッサージ（施術前には足浴を実施して足を温めておく）を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

⑧食 事

個々に食べやすい形を探り、刻み食（みじん切り・一口大）やミキサー食の対応をした。

放課後等デイサービス

1. 契約者数 20名
2. 活動時間 学校終了時の午後及び閉校日の受入れ
3. 活動内容 放課後にあにまあとに来るので、平日は次の日に疲れを残さないように、体を休めながら、音楽鑑賞、本読みなどをして過ごすことが多かった。
また、個々の興味を引くものを観察し、活動に取り入れて遊びを通しながら、リフレッシュを図り、また感情を豊かに表現できるようにした。
4. 体調管理 医療ケアの必要な児が多く、体調やてんかん発作等で入退院を繰り返すことが、多いため、家族と綿密に連絡を取り合い、体調管理に気をつけるとともに、欠席時も連絡を取り様子伺いを行った。
5. 家族支援 体調の変化、発達の変化、生活上の悩み等、児を取り巻く様々な悩みを抱えることが多いため、その都度話を聞いて、家族の負担軽減になるよう努めた。
また、兄弟の用事や、仕事の関係で、土・日に支援を希望する家庭も多く、地域生活支援事業で対応するなど、できる限り家族の支援依頼にこたえられるよう努力している。

児童発達支援

事業所利用に関する相談（他事業所も含めて）が年間数件あったが、利用には至らなかった。今後の利用につなげるために、ご家族の意向や、児の状態（医療ケアなど）へ対応できる体制を整えていく。

また、事業を知ってもらうために、広く情報発信をしていく必要がある。

平成26年度そるとぼっと活動報告

1. 在籍者の状況

平成26年度の定員20名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況は次の通り

月 区分		26年												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	27年			
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	
	女	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	

【在籍者障害支援区分】 区分6→3名、区分5→6名、区分4→8名、区分3→5名

日中一時支援事業デイサービス対象者

月 区分		26年												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	27年			
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

2. その他の利用状況

項目		26年												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	27年			
特実 支習 等生	延人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実研 習修 生	延人員	0	6	7	4	1	0	4	14	2	8	4	0	50
	利用日数	0	3	4	3	1	0	4	3	1	4	2	0	25
見学 者	件数	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3
	人員	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	3	10
ボテ ライ ンア	延人数	0	3	19	7	11	8	19	7	5	0	2	0	80
	特記									ミニ運動会	クリスマス会		豆まき	

3. 活動の状況

利用者さんの入退所はなく、出席率は在籍者22人中、19.1人だった。前年度に引き続き2グループ編成で活動を進めたが、室内の活動空間に制限があり、利用者さん同士の関係に影響が出てきてしまったため、個々に活動場所の変更や工夫をすることで、影響が悪化しないように配慮した。

平成27年度に向けて3グループの活動に戻すため、プレハブ室の整備を進めた。全体的には、そるとぼつとでの生活にも慣れ、落ち着いて頑張っている利用者さんたちの姿も確認することが出来た。

作業活動はグループに関係なく利用者さんの希望する(得意とする)作業を行った。その他の活動として外出や散歩、体育館で身体を動かすこと、音楽鑑賞、料理作り、また宿泊体験や個別体験、水泳、ボーリング、カラオケ等、皆さんがそれぞれに楽しめる活動を実施した。

〔作業活動について〕

① キャップ分離作業(ブリヂストン)

部品をキャップ、カバー、ウレタンに分離する作業だが、入荷量が減少しているため、得意としている利用者さんを中心に継続して取り組んできた。

② LDキャップ(ブリヂストン)

部品にコーティングされた樹脂を指先で剥がす作業。得意な利用者さんを中心に行った。

③ 割箸袋入れ(藤本商会)

紙のさやに割箸を入れる、ビニール袋に入れる、爪楊枝を入れる、ビニール袋を閉じる、おしぼりをポケットに差しこむ、という工程があるが、出来る工程をそれぞれ分担して行い、安定した状況で進めることが出来た。

④ ポスティング(アドポスティング)

2ヶ月に1~2回、磐田駅の南東地区まで出かけ配布物をポストに投函した。配布エリアを安全な地区に限定したので収入は減ったが、天候や職員配置を気にすることなく、利用者さんが交代で参加できた。

⑤ キャンドル作り(自主製品)

主に材料のロウを砕いたり、砕いたロウを型に入れる工程で参加し、手作りのキャンドルを作った。きのこキャンドルや可愛い物に人気があった。

⑥ ポストカード作り(自主製品)

パソコンのペイント機能を使い、季節に合ったカードや新たなテーマを決めて新作をこつこつと作成した。

⑦ ハンガーモップ作り(自主製品)

ワイヤーハンガーに短く切った毛糸をくくりつけ、成型した後に目鼻をつけてカラフルで表情豊かな「ハンガーモップ」を作成した。

⑧ エコビーズアクセサリ作り(自主製品)

利用者さんが描いたり色付けしたペットボトルを、オーブンで焼いてビーズを作り、ストラップやブレスレットを作成した。

⑨ お茶注文販売

新茶、水出し煎茶、年末年始のシーズンに注文販売を行った。

⑩ 製品販売

年間を通じて各地で行われるイベントやバザーに法人内の施設と協力して参加した。そるとぼつとでの店頭販売ではパンの販売が好評だったが、事情により販売できなくなってしまうことはとても残念だった。iプラザや花うたでの委託販売は、あまり売上が伸びなかった。

〔その他の活動について〕

① 施設行事

- ・宿泊体験 (6/27～28、7/25～26、8/29～30、9/5～6、9/26～27)
希望者21名の内19名がそるとぼつとに宿泊、2名は1日目のみ参加。5グループに分かれ、大衆浴場に出かけたりファミリーレストランで好きなメニューを食べたりして楽しく過ごした。
- ・流しそうめん (8/23)
家族と一緒に、駐車場で流しそうめんを行った。みんなでサラダを作り、そうめんと一緒にいただいた。利用者さんと家族、35名が参加。
- ・ファミリーウォーキング (11/1) ※雨天中止
- ・ミニ運動会 (11/22)
南島体育館を借りて、はまぼうと合同で行う。楽しく汗を流した後は農環センターでお弁当をいただいた。利用者さん13名、民生委員ボランティアさん1名が参加。
- ・ヤマハ労連チャリティー公演 (11/28)
劇団四季「二人のロッセ」にご招待いただく。普段体験できないダイナミックなステージを楽しむことができた。利用者さんと付添のご家族、20名が参加。
- ・クリスマス会 (12/24)
クリスマス会を楽しんだ後、グループ毎に分かれボランティアさんと一緒にケーキを作り一緒にいただく。利用者さん20名、ボランティアさん3名が参加。
- ・新年を祝う会 (1/10)
今年の抱負を聞いて、後半はグループに分かれ初詣に出かける。利用者さん20名が参加。
- ・豆まき (2/4)
ボランティアさんと一緒に豆まきをして、クレープ作りを楽しむ。利用者さん21名、ボランティアさん4名が参加。

② 個別体験

利用者さんの希望に沿って一緒に楽しめる内容を計画し、少人数で出かけた。

4 / 2 3	浜名湖花博1グループ(館山寺)	3名参加 (付添2名)
5 / 2 6	浜名湖花博2グループ(館山寺)	3名参加 (付添2名)
7 / 2 9	プール体験と買い物(袋井市)	2名参加 (付添2名)
9 / 1 2	J R & 喜多の湯(浜松市)	1名参加 (付添1名)
1 0 / 1 7	のんほいパーク(豊橋市)	3名参加 (付添2名)
1 0 / 2 8	J R & 浜松城公園(浜松市)	2名参加 (付添2名)
1 2 / 8	遠州灘海浜公園ウォーキング(浜松市)	2名参加 (付添2名)
1 2 / 1 2	華咲の湯&ランチバイキング(浜松市)	2名参加 (付添2名)

③ 料理作り

レクリエーションやグループ活動等の中で、散し寿司、カレーライス、焼き肉、パンケーキ、クレープ、生チョコ、ティラミス、炊飯ケーキ、かき氷等を作って食べた。

④ スポーツ・文化活動

利用者さんの希望を受けて、水泳(8名)、ボーリング(3名)、カラオケ(9名)をそれぞれ小グループで楽しんだ。

⑤ その他の余暇活動

壁面装飾の共同製作や季節に合わせた絵を描き施設内に掲示したり磐田市ふれあい作品展に参加。体力作りも兼ねて外出やウォーキングを実施したり、近くの体育館でボール遊びやバドミントン等身体を動かした。はまぼうで行われる「ともしびコンサート」に希望者が参加した。

⑥ 避難訓練

毎月、地震または火災を想定して避難訓練を実施。11月には総合防災訓練を行う。

4. グループ活動報告

せさみグループ（男性11名、女性1名）

生活面で介助や見守りの必要な方が多いので、個々の思いに寄り添い希望を伺って活動を進めた。ご家族のボランティア協力や貴重なご意見をいただき支援に生かすことが出来た。

① 作業活動

ブリヂストン、箸、自主製品作成（キャンドル、ハンガーモップ、ポストカード）を行った。また、今年度から取り入れた作業で、シートカバーセットと月1回程度で空き缶潰しを行った。

② その他の活動

月曜日の午後に外出、木曜日の午前には体育館で体を動かす活動、金曜日の午後に活動場所の清掃を行った。また、作業活動中にも少人数での散歩に出掛けた。

月曜日、水曜日、木曜日とそれぞれ決められた日に出せるよう、ゴミの取りまとめとゴミ捨て場までの運搬、潰した空き缶の運搬を目的に外出を兼ねて行った。

③ グループ活動

ご家族にも参加していただき、6月にボーリング大会、10月にハロウィンパーティー（昼食作り）、3月に年度納めの会（昼食作り）を行った。ご家族と一緒に参加されたこともあり、それぞれに余暇活動を楽しむ姿が見られた。また、土曜日通所の日には、季節の行事に合わせたお菓子作りも行った。

みんとグループ（男性7名、女性2名）

日中活動は作業を中心とし、午後は外出する日を設け散歩などで体を動かしたり気分転換をはかる時間とした。拘りが強く変更が苦手な利用者さんが多いため、できるだけ日課の変更は少なくし朝の会で確認するようにした。天候や職員側の都合で中止せざるを得ない場合でも説明することで受け入れることができるようになった。

互いの行動で影響しあい不安定になってしまう場合には、作業場所を変更する等の方法をとったが、落ち着けない利用者さんもあり、安心できる対人関係と環境の提供が課題である。また、ご家族からのご意見を取り入れたきめ細かな対応にも努めた。

① 作業活動

主な作業として割り箸、ブリヂストンのLDキャップ分離作業、期間の仕事としてポスティングを行った。作業場所や作業工程の工夫などで安定してできるよう配慮した。1名の利用者さんは、外部作業としてベッドメイキングに参加している。

② その他の活動

週2回午後外出し散歩等で身体を動かす時間をつくった。

体育館活動やともしびコンサートには、希望者が参加した。

③ グループ活動

12月に忘年会、3月に年度納めの会を実施した。ご家族参加で昼食作りをし楽しい時間を過ごすことができた。月末のレクリエーションとしてかき氷作りとポップコーン作りをしたが、毎月実施することはできなかった。

5. 委員会活動

① 保健委員会

家庭やグループホームと連絡を取りながら、利用者さんの日々の体調を見守った。体調を崩して欠席した場合には、電話で様子を伺ったり状況により自宅訪問を行った。

毎月一回、体重測定を実施し体重の変化を把握した。

健康診断の設定は利用者さんに配慮して、はまぼうと松ぼっくりに分けて出向き、採血やレントゲン検査を行った。

歯科衛生士を招き、せさみグループの利用者さんにご家族に歯磨き指導を体験していただいた。必要に応じて、保険便りの発行、流行性疾患への注意の呼びかけや対処方法を伝えた。

②環境委員会

ご家族の協力を得て、6月、12月と半年に1度大掃除とワックスがけを行った。また6月にはバルサン散布をし、害虫駆除を行った。

春から秋にかけ、活動の中で利用者さんと施設周辺の草取りを行ったり、職員が駐車場や裏の河川敷の草刈りを定期的に行った。

ごみの分別は、週に3日それぞれのごみの回収日に合わせ、また古紙やペットボトルについても、活動中に利用者さんと一緒に運搬して処分した。

ごみのない綺麗な状態を維持できるよう、毎日活動終了後に部屋とトイレの掃除を行った。水曜の午後には、モップがけと感染予防のための手すり・机・椅子等利用者さんが手に触れそうなところの消毒を行った。

③安全委員会

利用者さんの事故予防と安全運転の確認を毎月行ない、「ヒヤリハット」の提出を心がけることで事故防止の意識を高めた。身体状況の変化が見られる利用者さんもいるので、見守りや付添を心がけた。事故については、大事に至るものはなかったが、今後も気を付けて行きたい。

毎月、火災または地震を想定した避難訓練と総合防災訓練（11月）を実施し利用者さんと職員の防災への意識を高めた。各事業所の防火管理者による防災担当者会議を定期的開催し、法人内の防災対策の意識を高めた。

10月と3月に設備自主検査を実施。壁等の傷みが増えてきたが、応急処置で済ませ今のところ問題はない。

〔ヒヤリハット〕 2件(2名)

内訳：利用者さん同士の接触(1)、乗車時のシートベルト着用(1)

〔事故〕 3件(3名)

内訳：物損(2)、発作による転倒(1)

6. 地域社会との関係

広報活動として、「ふくはまの風」を法人施設と協力して発行した。「そるとぼっと通信」の発行は出来なかった。

販売所に来ていただいた地元のお客さんと触れ合ったり、近隣を散策して地元の方への挨拶を積極的に行なった。

地域の民生委員さんをはじめボランティア及び実習生の方を受け入れ、利用者さんと交流していただくことで理解を深めるよい機会になった。

法人内の各事業所、ご家族と協力して「地域交流会」に参加した。地元の方や大勢のボランティアさんのご協力をいただき、音楽や模擬店を中心とした楽しいイベントに参加できた。

7. 家庭との関係

連絡ノートに施設と家庭の様子を記入して日々の情報交換を行った。必要に応じて電話連絡や自宅を訪問し様子伺いをした。個別支援計画作成時には全ての家庭と面談を実施し、また個々に家庭からの相談を受け面談を実施した。

地域交流会(5月)、大掃除(6月と12月)、流しそうめん(8月)、活動参観・懇談会(3月)を家族参加で実施した。恒例のファミリーウォーキングは悪天候により中止となった。

8. 苦情解決体制

苦情の受付は無かった。こんな一言聞きました報告書として2件「職員の支援に対する姿勢」と「電話のかけ方について」を受付した。受付けた内容についてはお詫びをして、職員間で検証し意識を高めた。

9. 内部研修

利用者さん本位の質の高い支援を実現するため、職員の専門知識の獲得と技術の研鑽はとても大切なことである。そのため積極的に外部の職員研修等へ参加したり内部研修を実施した。

更に、身に着けた知識や技術を支援の中で有効的に生かすためには、職員のチームワークがとても重要になる。職員間の共通理解を深めるために、日頃から情報交換を密に行い、職員会議・グループ会議・ケース検討会を定期的また必要に応じ実施してきた。

内部研修としては、職員会議の中で文献等の読みあわせや出張報告を行った。法人内職員合同研修については、他施設担当者との連携をとり、年間5回実施した。

各施設の研修担当者による合同会議を定期的に行い、合同研修会のあり方や自己評価等について検討を重ねた。

日付	内部研修内容	担当者
4/23	ケース検討	研修担当
5/21	ケース検討	研修担当
6/18	ケース検討	研修担当
7/9	<第1回合同研修会> ・ロールプレイング 「理想の職員像を考えてみよう」 ・地域療育支援センター事業報告 ・地域生活支援事業事業報告 ・共同生活介護事業報告 ・理事長講話	研修担当 若林敦子 鈴木良和 〃 高橋和己
8/27	<第2回合同研修会> ・グループホームでの嘔吐下痢について ・感染症について ・理事長講話	鈴木良和 伊藤流美子 高橋和己
9/3	<第3回合同研修会> ・障害者虐待防止法・差別解消法について ・事例検討 ・ノーマンクンツ「支えの条件」読合せ ・理事長講話	青葉静江 研修担当 〃 高橋和己
10/22	ケース検討	研修担当
11/5	<第4回合同研修会> ・地域生活支援事業事業について ・理事長講話	鈴木良和 高橋和己
12/17	ケース検討	研修担当
1/21	ケース検討	研修担当
2/15	ケース検討	研修担当
3/28	<第5回合同研修会> ・自己評価報告について ・グループワーク「虐待について」 ・理事長講話	研修担当 〃 高橋和己

10. 地域生活支援

地域生活支援事業やライフサポート事業を利用して申し込みのあった、施設利用者さんや地域の方の時間外や休日の支援を法人内他施設と連携して受け入れた。

11. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

各相談事業所や市町の担当者と連絡をとりながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、在宅生活を支えるための各支援について、特別支援学校卒業後の進路等について相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

12. 中遠地域自立支援協議会(磐田市、袋井市)

知的・身体部会には、「こども部会」「進路・就労部会」「地域生活支援部会」「防災部会」「重心部会」の各専門部会があり、その中の「地域生活支援部会」には、課題別に「グループホーム・ケアホーム」「ショートステイ」「相談支援事業から見える在宅支援」「自閉症等在宅支援」の各検討会があり、福浜会からは担当を決め積極的に参加した。「地域生活支援専門部会」のまとめ役「重心部会」「防災部会」「自閉症等在宅支援検討会」の各担当を福浜会が行っている。今年度は5回の知的身体部会に出席した。

平成26年度松ぼっくり活動報告

1. 在籍者の状況

平成26年度の定員40名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分	月	26年												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	27年	1	2	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	31	31	31	31	31	31	31	31	31	32	32	32	32
	女	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	計	40	40	40	40	40	40	40	40	40	41	41	41	41

日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	26年												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	27年	1	2	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

2. その他の利用状況

項目	月	26年												合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	27年	1	2	
特実 支習 等生	人員	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	利用日数	0	0	0	0	0	1	13	0	0	0	0	0	14
実研 習修 ・生	人員	0	1	1	2	3	0	4	6	0	0	0	0	17
	利用日数	0	3	4	13	16	0	4	6	0	0	0	0	46
見 学 者	件数	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	5
	人員	1	0	0	1	0	0	4	0	0	0	1	1	8
ポテ ライ ンア	延人数	9	8	11	15	9	12	12	8	7	10	10	7	118
	特記													

3. 活動の状況

今年度は、Wish、スマイル、ビジョン、樹の4グループでの活動を基本に、それぞれのグループで協力しあう動きが多くみられた年となった。利用者さんを取り巻く環境も変化しており、その変化を感じる機会も多かった。年齢によって、生活習慣病など体調に変化が出てきた利用者さんもあり、今後の健診のあり方や主治医や協力医との情報交換などの課題が表われた年でもあった。通所施設として役割とその機能について、すべてを抱えることもできず、又するべきでもなく、でも課題は突きつけられている状況が続いている。関係機関との関わりが増える中で、サービスを利用する主体としての利用者さんや家族の方の生活をどう一緒に考えていくのか、情報の共有一つをとっても、難しい課題である。

仕事については、引き続き(有)フスマ商会、コーケン工業(株)といった企業内での仕事、さくらの苑、於保老健センターでのベッドメイキングの仕事、そのみ園でのしいたけ収穫、公園清掃といった外部作業に取り組んだ。又、グループごとに請負の仕事やリサイクル、自主製品づくりを行い、1日のうち少しの時間でも自分の仕事に向き合う機会をつくった。

午前は作業活動を行い、午後は散歩やレクリエーションを行う点は、今年度も同様であった。そのほか、今年度もグループ活動や個別の活動を実施した。

4. グループ活動報告

Wish

色々な関わりの中で、多くの人と触れあった。利用者さんの思いを取り入れた活動等を計画する中で、本人が心地良く過ごせる環境を整えてきた。利用者さん一人一人の気持ちを受け止め、こちらの思いも伝えることで、関係作りを大切にしてきた。

①作業

個々の作業場所を用意して、本人の仕事が分かりやすく気持ちよく取り組めるようにしている。また、本人と向き合う中で、作業時間や作業量等を調整してきた。

しいたけ作業については、長年続け定着してきたことで作業種が変わってもスムーズに作業することができている。利用者さんにとっては楽しみの1つにもなっている。

- いちごのポット作り（鈴木農園）
- アルミ缶／回収・缶つぶし・運搬（三光・野末商店）
- 自主製品作り（メモ帳・連絡ノート・観葉植物）
- しいたけ作業及び販売／週1回 4～6月、11～3月（森町 そのみ園）
- ふすま組立て作業／週1～5回（(有)静岡フスマ商会）
- お茶の委託販売（恵松学園）
- リングはめ（コーケン工業）

②午後の活動

午後の活動はリフレッシュすることを心掛けてきた。施設周辺を散歩したり、公園に出かけたりして身体を動かした。また、室内活動（カラオケ等）や図書館でCDを聴く等、ゆったりと過ごす時間もあった。午後の活動の中で桜を見に出かけたり、ホットケーキを食べたりして、季節を味わう機会も取り入れて共に楽しんだ。

利用者さん個人の作品や共同で作品を作り上げて、ふれあい作品展へ出展した。共に創り上げることを大切に、出来た喜びを味わった。また、本人の趣味や特技を紹介する場にもなった。

③その他の活動

グループ外出・宿泊体験等は、皆で行き先、行き方、夕食等の意見を出し合う中で、計画を立てた。また、一人一人がそれぞれの楽しみを持って参加でき、終わってからそのことを楽しく思い出し、嬉しそうに話をする様子もあった。

【グループ活動】

活動の種類	内容
グループ外出	のんほいパーク
グループ外出	森町「神明の里」～鮎のつかみ取り&バーベキュー
プール	竜洋海洋公園B&Gにてプール
宿泊体験	竜洋オートキャンプ場
クリスマス会	ジョイフル福田店・ミスタードーナツ豊田町店
初詣と新年会	小國神社にて
年度納めの会	1年間の振り返りと軽食

【個別外出】

行き先	内容
浜松アクトシティ	アクトシティ&楽器博物館
浜名湖パルパル &ウエルシーズン浜名湖	遊園地&バイキング
ラグーナ蒲郡	テーマパークにて楽しく過ごす。
掛川花鳥園	サガミ&掛川花鳥園散策

スマイル

利用者さんひとりひとりにとって1日の見通しが立ちやすいカリキュラムを組むことで、安心して活動に参加できるように環境を整えた。又、利用者さんひとりひとりに合わせて作業を組み合わせていった。また、集中して作業を行える環境を整えていく中で利用者さんのエンパワーメントを高めていけるよう配慮した。様々な作業に取り組む中で個々のスキルアップ、能力の高さを改めて実感できた。

① 作業

- ブリヂストン（キャップ分離作業）
- コーケン工業（リングはめ）
- 缶回収（4箇所）

② 午後の活動

午後は、「外出」を基本とし、ひとりひとりがリフレッシュできるよう心がけた。季節を感じながら身体を動かす良い機会となった。選択する経験、そして楽しみになるようにと外出先の自動販売機でジュース、アイスを購入する機会を作り、利用者さんの楽しみに繋がった。

③ その他の活動

○グループ外出・活動

季節に合わせて外出先を選び計画・実施した。グループ活動としては、月2回おやつをもって公園へ出掛けた。（地域内の店でおやつ、大判焼き、ドーナツを購入）利用者さんが楽しめるような活動を来年度も計画していきたい。（お菓子作りなど）

○宿泊体験（10/3～10/4）

松ぼっくりの施設を利用して実施。宿泊ということで落ち着かない一面も見られたが、入浴は、松ぼっくりで実施した。地元の定食屋での食事を楽しめた。普段とは違ったメニューを選ぶ方もいて、良い経験となった。

【グループ活動】

活動の種類	内容
宿泊体験	松ぼっくりを利用して宿泊、外食
グループ活動	クリスマスケーキ作りと忘年会
初詣	小國神社
グループ外出	カラオケ BOX&昼食外食

【個別外出】

年に1回、希望者対象で実施した。各利用者さんが、楽しめるような場所や内容を計画したことで、普段とはまた違う素の表情を見せ、リラックスできる時間となったと思われる。

行き先	内容
浜名湖バルパル&ウェルシーズン浜名湖	遊園地&バイキング
浜名湖グリーンファーム &華咲の湯	散策と外出
アクティ森	吉川和紙・紙漉き体験

ビジョン

①作 業

【内職、仕事について】

- ・千栄加工（クリップ、カード入れなど事務用品の組立て）
- ・堀住加工（袋入れ、ホチキス止め作業）
- ・コーケン工業（リングはめの仕事）
- ・静岡フスマ商会（梱包用のダンボール作り）
- ・さくらの苑、於保老健センター（ベッドメイキングの仕事）
- ・缶回収
- ・公園清掃（ふるさと公園）

②午後の活動について

午前引き続き内職など仕事をする人もあれば、公園で身体を動かしたり、図書館でゆっくりと音楽を聴いたり、新聞を読んだりして、リフレッシュする人もありました。

内職や外出などの活動の他に、本人の希望を尊重し、施設外作業への参加も促しました。

③その他の活動について

利用者さんのアイデアを活かしたり、思いを大切にしながら下記のように行事を行ってきました。全てを實現できたわけではありませんが、引き続き来年度へつなげていけるような活動を心掛けました。

- ・グループ外出・・・季節ごとの活動として、いくつかのグループに分かれて実施しました。

（ボーリング、プール、アクティ森、遠州灘海浜公園、外食、初詣）

- ・宿泊体験・・・8/29～30、9/5～6の2回に分かれて実施しました。

利用者さんたちが楽しみにしている年間行事のひとつになっています。日課を終えて、ななつぼしやリフレUで入浴を済ませてから、参加している皆さんの希望にそって外食をしました。夜は、仲間同士でおしゃべりをしながらお酒を飲んだり、テレビを見て楽しみました。

また、職員とじっくり話をしている姿もありました。

- ・季節の行事・・・クリスマスの昼食会、節分豆まき
- ・おやつ作り・・・ホットケーキ、かき氷

【グループ活動】

活動の種類	内容
グループ外出	竜洋海洋公園内プール・月見の里プール
宿泊体験	松ぼっくりを利用して宿泊、外食
グループ外出	袋井グランドボウルにてボウリング
グループ活動	クリスマスケーキ作り&モスバーガー
初詣	小國神社

【個別外出】

活動の種類	内容
浜松球場	野球観戦（中日×西武～ナイトゲーム）
バッティングセンター&ヤマハスタジアム	バッティング、買い物、サッカー観戦
磐田市民文化会館	倉木麻衣コンサート参加 18：00～
浜松まつり会館とららぽーと磐田	買い物と外食
イオンモール浜松市野	買い物と外食
あらたまの湯	電車利用と入浴・外食

樹 G

本人の思いを大切に伝え合える関係を保ち、お互いの気持ちが変わり合える仲間作りを考えて過ごしてきた。また自分の気持ち等相談出来るように環境を整えた。作業面ではそれぞれの目標を持ちながら、出来た事を喜び合った。活動面では、仕事とは違ったリフレッシュする時間を大切にしてきた。また、少人数で活動することも多く、自分の気持ちを言い合える関係作りに努めた。

①作 業

気持ちよく作業に取り組めるよう、環境を整えながら、作業への意識、意欲が継続的に持てるように関わることを大切にしてきた。

- ・(株)コーケン工業（リングはめ作業）
- ・千栄加工（クリップ・カード入れ）
- ・堀住加工（袋入れ）
- ・公園清掃（ふるさと公園）
- ・(有)静岡ふすま商会（ふすまの組み立て・出荷用の箱・出荷時の衝撃緩和材作り）
- ・自主製品（曼荼羅アートのメモ帳・ノート、ポチ袋）

②その他の活動

<午後活動>

利用者さんが活動を選び、自分の意見を出し、相手の意見を聞く中で、活動を決めていった。また季節によってかしわ餅やかき氷を食べに行くこともあった。

（内容：ドライブ、買い物、散歩、カラオケ、DVD鑑賞、おやつ作り、パソコン、音楽鑑賞等）

<グループ外出>

利用者さんが意見を出し合い、計画を進めてきた。大きなイベントの様になり楽しみに待ち参加していた。

【グループ活動】

活動の種類	内容
グループ外出	外食（ジョリーパスタ、五味八珍）シダックスにてカラオケ
グループ活動	退所した利用者さんを思う会～幸楽苑にて
クリスマス会	テイクアウト・パーティー形式で実施。
初詣	初詣、ボランティアさんとの食事会～五社神社、鴨江寺、小國神社
年度納めの会	ジョイフル～食べながら年度納めの会

【個別外出】

行き先	内容
浜名湖ガーデンパーク・イオン志都呂	公園内散策と施設見学と買い物
浜松アクトシティ	アクトシティ&楽器博物館
猫カフェ	喫茶&シダックス（カラオケ）
浜松市動物園&買い物	散策と買い物
掛川花鳥園	サガミ&掛川花鳥園散策

5. 音楽活動

【ともしびコンサート】

音楽活動を中心に活動しているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽（歌）や楽器、歌のリクエストなどに親しむ機会を設け、室内コンサートを行う。「ともしびコンサート」も恒例となっており、演奏を聴いたり歌を歌ったり、皆で楽しい時間を過ごすことができた。

6. 環境美化委員会

◎大掃除・・・年2回に分け、ご家族の力を借りながら実施した。

第1回目・・・5月2日（金）、5月10日（土）

第2回目・・・12月12日（金）、12月17日（水）

日常の掃除・・・毎日放課後にトイレ掃除・床のモップがけを行ってきた。また、毎週金曜日、午後の活動に掃除を組み入れ、利用者さんと一緒に取り組んできた。

◎草刈り・草取り・・・地域交流会の前と第1回大掃除の時に建物周辺の草刈り・草取りを実施。草取りについては、活動の中でも組み入れ、利用者さんと一緒に取り組んできた。

◎ゴミ出し・・・市の定める規則に従って収集日の前日にゴミの分別を行い、当日ゴミ当番が集積所へ出した。

◎施設周りの美化・・・施設の周囲に燃えやすい物がないか等の見回りや竹やぶに落ちているゴミの処分を行った。

◎粗大ゴミの処分・・・地域交流会と大掃除の時期に合わせてコンテナを借り、施設内やハウスの整理を通して粗大ゴミの処分を行った。

◎経費節減・・・引き続き、無駄な電気や水の利用を抑えるような働きかけやコピー用紙、裏紙利用の推進を図ってきた。

◎暑さ対策・・・夏場は作業棟周りによしず等を設置して暑さ対策を行ってきた。

◎防虫対策・・・4月30日（水）の放課後、施設内及び作業棟内において一斉にバルサンを実施。

7. 安全委員会

① 活動の報告と反省

- ・事故報告が3件。いずれも車両関係。
- ・ヒヤリハットの提出が書類として見られない。ミーティングではケースを中心にヒヤリハットな内容について報告がなされているので、見直していきたい。
- ・安全運転に関しては日頃からミーティングで声掛けをしたり、3月に研修でグループ討論など実施することができた。
- ・建物の状況などについては、年度末にチェックをしていく。

② 来年度に向けて

- ・とにかく、ヒヤリハット報告の充実に力を入れていく。
- ・しかし、事務仕事を増加させるような、単に見た目を整えるような活動にはしたくない。
- ・回覧の仕方など見ている情報への伝達について工夫が必要に感じる。
- ・単に広く情報を広めることが必ずしもプラスに働くことばかりではないので、必要な事をしっかりと伝えていくようにできると良い。
- ・朝のミーティング簿が現在一番活用されているので、これを十分に活用していくことを考えていく。回覧だと途中で止まってしまったり、紛失してしまう危険もある。
- ・活動計画の作成、事故報告書のまとめ、建物の状況チェック、ヒヤリハットのまとめ（ミーティング簿より）を分担して実施していく。

8. 生活・保健衛生委員会

① 健康診断の実施（春）… レントゲン検査、採血、保菌検査、検尿、血圧、身体測定、嘱託医による問診

（秋）… 採血（春に未受診の利用者さん及び職員希望者）、保菌検査、検尿、嘱託医による問診 ⇒松ぼっくり・採血の結果、数値が高いため通院を勧めた家庭もあった。

② 記録の管理・記入・・・健康記録表、健康診断個人表、健康診断結果表、嘱託医訪問記録、投薬記録（緊急用も含む）の記入 ⇒松ぼっくり～昼の薬はグループで管理をした。発作の記録は、不十分だったので年度末にチェックしていきたい。また、投薬記録の変更も十分でなかった。

③ 個々人への衛生面への配慮

入浴、洗髪、整容、手洗いなどをチェックし声かけや家庭への連絡等を行なったが、改善されないケースもあった。又、松ぼっくりも40歳以上の方も増えて、急な体調不良を訴える方もいる。そんな中、成人病や生活習慣病対策として、どこまで健診や採血などで予防ができるか、どこまで施設側で行うのかなど検討する課題が浮かび上がった年でもあった。

⇒松ぼっくり・・・インフルエンザやノロウイルスが流行る時期には、手洗い・うがいの声かけ、部屋の換気の実施などを積極的に行なった。水曜日の午後の清掃終了後、次亜塩素酸ナトリウムで消毒を行うようにした。今年度は、㊦3名（家族含む）、㊧2名がインフルエンザに感染、休所となった。アルコールスプレーを用意し、毎日消毒を実施した。インフルエンザ予防のためにマスクも用意した。

⇒嘔吐下痢症の疑いで㊨4名が自宅待機等の処置をとった。

④ 保菌検査・・・利用者さんは、健康診断時（春・秋の2回）、職員は毎月実施した。

⑤ 『保健だより』の発行・・・今年度は3回発行。時期や状況に合わせた情報提供をした。

（メタボリック症候群・口腔衛生、インフルエンザ等）

⑥ 体重測定の実施・・・毎月1回実施し、体重表を通して各家庭にお知らせした。

⑦ 職員研修・・・合同研修を実施し（年1回）、感染症の知識を再確認する機会を設けた。

9. 行事・バザー報告

月	日	内 容	日	バザー
4月	19日	地域交流会会合(打合せ)		
5月	2日	大掃除	17日	地域交流会不用品バザー 地域交流会うなぎ・寿司販売 ヤマハジャンボリー
	9日	バザー品値付け		
	16日	地域交流会準備		
	17日	地域交流会		
	30日	はまべ会役員会・会計監査	25日	
6月	6日	はまべ会総会		
	12日	地域交流会反省会		
7月				
8月				
9月				
10月				
11月	9日	ウォーキング(雨天の為中止) ナイスハート・ふれあいのス ポーツ広場	2日	フェスティバル豊田
			22日	光る子まつり
			23日	ふくでふれあいまつり
12月	12日	大掃除		
1月				
2月				
3月	13日	個別面談		
	19日	はまべ会役員会 はまべ会		

10. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織(人権擁護・虐待防止委員会)を設置。今年度は4回の会議を経て、研修担当者との協力をし、合同研修会にて利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知とともに学ぶ機会を持った。利用者さんの安心、安全と人権擁護の観点から、適正な支援の提供、利用者さんの自己実現と社会参加のための支援を妨げることのないように、適宜、委員会を開催して職員がともに学び、お互いに確認しあう場としたい。

11. 内部研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。主に、水曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修5回、内部研修1回の計6回の研修活動を実施した。

今年度は合同研修会を中心に行い、人権擁護や虐待についての内容を新たに取り入れたほか、グループワークを積極的に採用し、参加型の研修になるように工夫をした。他業務との兼ね合いで、参加人数が少ない状況が続いているのが今後に向けての課題である。

次年度も支援向上のために、各種委員会・担当者との連携しながら、職員が興味や関心を持って研修に参加できるよう、幅広い観点から研修内容を検討していきたい。また、内部研修会では出張報告ができていないため、実施していきたい。

<活動内容>

日付	内 容	担当者
7 / 9	地域療育センター・地域生活支援事業・グループホームの事業報告、「理想の職員像を考えてみよう」（グループワーク）、理事長の話 <合同研修会>	各担当者
8 / 20	GHでの嘔吐・下痢症について、感染症（ノロウイルス・インフルエンザ）について、理事長の話<合同研修会>	生活保健委員会
9 / 3	虐待防止法・差別解消法について、事例検討（グループ討議）、理事長の話、ノーマンクンツ「支えの信条」読み合わせ<合同研修会>	研修担当者
10 / 17	地域支援事業について、理事長の話 <合同研修会>	地域生活支援事業担当者
3 / 11	危険の予測と回避、安全に関して（グループ討議）《内部研修会》	安全委員会
3 / 28	自己評価チェックリストの記入、自己評価についての話し合い、虐待について（グループワーク）、理事長の話<合同研修会>	研修担当者、人権擁護・虐待防止委員会

12. 苦情解決体制

平成26年度としては、苦情受付として0件、こんな一言聞きました報告5件という状況であった。内容については、職員の対応に関するもの1件、サービスの内容に関するもの4件であった。

あらためて、日々の活動を振り返る必要性と利用者さんや関係する人たちに真摯に向かい合う大切さを感じた次第である。

13. 相談・福田チーム検討会

施設等で受ける相談については、相談支援専門員・リーダー・地域生活支援担当者を中心に、磐田市、袋井市等の委託相談事業所などの関係機関と連携をとりながら実施している。内容は、通所に関する相談・在宅者への生活支援、学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談等。また福田地区在宅者のケース検討会（福田チーム検討会）に参加。地区内の各機関が一致した認識が持てるように、協力して進めている状況である。

又、高齢者のご家族を持つ家庭での利用者支援について、地域包括支援センター主催の個別地域ケア会議へ参加したが、介護の分野の考え方でサービスを幾重にも積み重ねていく捉え方が、かえって利用者さんにとっては負担になるケースもあるように思われた。様々な参加者が共通理解を得ることの難しさを感じた。

14. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱（厚生労働省通知）に基づき、障害福祉に関するシステムづくり（相談支援事業等）のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会（専門部会）をもって構成されている。参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じてその他職員も参加した。

作業部会（精神部会、知的・身体部会）及び「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」「重心部会」「防災部会」の各専門部会、そして「グループホーム」「ショートステイ」「相談支援事業から見える在宅支援」「余暇支援」「自閉症等行動障害」の課題別検討会に参加。

この内、「重心在宅支援専門部会」、「防災部会」「地域生活支援専門部会」とその課題別検討会である「グループホーム」「自閉症等在宅支援」の担当を福浜会が受けている。

平成26年度 潮の香活動報告

1 平成26年度の定員（20名）の月別在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
女	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20

2 その他の利用状況

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	特実 支習 等生	延べ 人員	0	0	10	0	0	0	25	0	0	0	0	0
	日数	0	0	10	0	0	0	13	0	0	0	0	0	23
実研 習修 ・生	延べ 人員	0	6	8	2	0	0	0	0	0	0	0	0	16
	日数	0	3	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8
体見 験学 ・者	人員	0	0	0	1	0	2	2	9	0	1	0	0	15
	件数	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	5
ボテ ライ ンア	延べ 人数	12	12	20	22	12	18	23	18	19	20	19	21	216

3 活動の状況

(1)仕事について

本年度も、地域に根ざした自主製品の「祭典用のき花作り」、請負の「堀住加工有限会社（ヤマハのオートバイ部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「有限会社アイバ（ヤマハの船外機部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「ダイオ化成株式会社（網戸張替用ローラー）の袋詰め」、「有限会社マックスのダミー作業」の仕事を行ってきた。

また、地域の一員として事業所で働くことを考え、引き続き「コーケン工業（自動車部品）」と「静岡フスマ商会（襖の組立等）」と「カネ長水産（しらす加工）」と「さくらの苑（ベッドメイキング）」へ出向を行ってきた。

《のき花製作》

今年度も福田地区祭典用のき花の、製作総本数約22,340本（寄付を含む）を利用者さん・職員及びボランティアさんの協力を得て作業を進め、無事に出荷することができた。また、利用者さんの技量が向上したことで年々きれいな花になっており、地域の方からも「色がきれいだね」等の嬉しいお褒めの言葉を頂き、利用者さんの大きな励みとなっている。

※本年度も豊田地区と竜洋地区から注文を受けた。

《請負作業》

「ヤマハのオートバイ部品・船外機部品の袋詰め」を行ってきた。月によっては仕事量に差があり安定しないこともあるが、26年度は一年を通して比較的安定しており、ほとんど休みなく続けることができた。「ダイオ化成株式会社」の仕事は、網戸張替用のローラーを袋に入れてから箱詰めする作業で、袋入れに主に1名が関わっており、自信を持って取り組むことができています。また、ヤマハの仕事の合間を縫って行っている、電気部品のカプラへのダミー作業「有限会社マックス」は始めてから2年半が経ち、細かな作業だが今では仕事に集中できるよい仕事となっている。

《外部作業》

地域への社会参加と就労支援の一環として、地域の事業所等に積極的に出掛けて仕事をする機会を作ってきた。

コーケン工業には現在も男女4名が出向しており、新しい作業に挑戦したり作業量を増やしたりするなど、自分の持つ力を十分に作業に発揮し、充実した毎日を過ごすことができています。

㈲フスマ商会とカネ長水産には男性1名ずつが出向している。すでに長く働いているため事業所との信頼関係もあり、安定して出向できている。

また、老人介護保険施設さくらの苑へベッドのシーツ交換作業に1名が出掛けるようになってから1年が経った。週に1回のみではあるが、今では作業にも慣れ休まず仕事に励んでいる。できれば今後日数を増やしていければと考えている。

(2)その他の活動

毎日が作業中心の生活であるため、気軽に楽しめる活動を目指し年間計画を立てて実施してきた。各種行事・外出には利用者さんの意見を取り入れながら企画し、充実した楽しい活動内容となった。

① スポーツ・散歩・レクリエーション等

朝のラジオ体操・ストレッチ体操・散歩は毎朝励行してきた。ペットボトルに水を入れて利用したダンベル体操や、タオルを使うストレッチ体操も行った。

今年度のスポーツはニュースポーツ体験を行った。体育館を借り市のスポーツ推進委員の指導で、Gボール・ペタボード・ディスクゲッターナイン等の軽スポーツを、爽やかな汗を流しながら楽しむことができた。

また、自動車総連主催のふれあいのスポーツ広場磐田大会に参加し、ロープおくり・リバース大玉・風船バレー等をチームで競い合った。この日はアトラクションやじゃんけんダンスなどもあり、とても充実した楽しい内容であった。

今後も、やりやすく利用者さんに適した運動はどんなものがあるか検討し、利用者さんの意見を取り入れながら、体を動かす活動を考えていきたい。

② 料理作り

今年度も、作って食べる楽しみとしてお菓子作りを行った。リフレUの調理室を借りて6月に北高実習生と共に「カップケーキとクッキー」、11月に「芋きんとん(茶巾絞り)」、希望者限定で2月のバレンタインデーに「チョコバー」を作った。見た目はともかく、楽しく美味しくできて全員大満足だった。

③ 音楽・美術の鑑賞及び出展

美しいもの、創造的なものに触れるための美術鑑賞・音楽鑑賞会を積極的に行ってきた。美術関係では、磐田市図書館で行われた磐田市在住の作家の作品を鑑賞し、身近な風景画や人物画、工芸品等に親しむことができた。また、今年度はふれあい作品展に2名が出展し、力作である写真や絵画を多くの方に鑑賞してもらうことができた。

音楽関係では、地域交流会で間近に楽器演奏や歌を聴き、一緒に歌ったり踊ったりすることができた。また、ヤマハ労連主催のチャリティー公演ではミュージカルを観劇し、大いに笑ったり歌ったりと楽しめた。

日常的な音楽活動は、利用者さんと季節ごとに選曲した歌を、朝の会で毎日欠かさず歌ってきた。今年度は「明日という大空」「Let it Go～ありのまままで～」「負けないで」「むぎのうた」などを歌ってきた。声を出すことによって元気が出たり、合唱でみんなの気持ちがまとまったりする効果が期待されるので、続けていきたい。

④ 野外活動(年間5・6回実施)

普段の利用者さんとのコミュニケーションから野外活動のヒントを得て、行き先等を決めてきた。そして、どの野外活動でも意欲的に取り組んできた。

主なものとして、お花見は、敷地川沿いの桜を見に弁当を持って出掛け、満開に咲き揃った花に囲まれながらおいしく昼食をとった。午後には獅子ヶ鼻公園の展望台から浜松の街を眺めリフレッシュできた。また、10月のウォーキングは親御さんにも参加して頂き浜名湖ガーデンパークを歩いたが、天候に恵まれず途中で諦めて残念であった。ミニ旅行は、日本平動物園へ行った。この日、ウォーキングに続きあいにくの雨となり、傘を差しながら園内を回ることになった。しかし、珍しい動物を間近に見たりウサギなどに触れ合ったり、またお土産も買うことができ楽しく1日を過ごすことができた。

⑤ 個別体験

今年度も、年1回の個々が希望する体験を行った。個人や少人数で出掛け、それぞれ1日を楽しく過ごすことができた。

- | | | |
|--------|----------|------------|
| ・ 7/14 | 買い物と食事 | 1名参加(職員1名) |
| ・ 8/5 | カラオケと食事 | 2名参加(職員1名) |
| ・ 9/30 | 海釣り食事 | 1名参加(職員1名) |
| ・ 10/8 | コンサートと食事 | 1名参加(職員1名) |

- ・ 10/16 買い物と食事 3名参加（職員1名）
- ・ 10/21 名古屋港水族館 7名参加（職員2名）
- ・ 11/10 温泉と食事 2名参加（職員1名）
- ・ 11/7 買い物と食事 1名参加（職員1名）

⑥ 誕生日（BDショッピング）

利用者さんの誕生日に、朝の会等でお祝いの言葉をかけたり、買い物に出掛け決められた金額（500円）の中で好きなものを買ったりして、楽しく実施できた。（例：お菓子、日用品、CD、雑貨など）

⑦ 地域清掃

散歩をしながらゴミを拾う活動を行った。「ひろ道ウォーク」と名付けた活動で、少しでも地域のために役に立つこと、また、自分たちが気持ちよく歩けるようにと、月に1回のペースで続けてきた。（冬期12月～3月は休止した）

今年度は足を伸ばし、福浜会の事業所や公共施設の周りなど、街中も行ってきた。安全に配慮しながらこれからも続けていきたい。

⑧ イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

活動ではないが、マックスバリュ福田店のキャンペーンに参加して12年が経った。皆様の温かなご協力により、毎年約15,000～20,000円の助成をいただいている。助成金はお菓子や日用品などに替え利用者さんに寄贈することができている。

(3)食事等について

- ・ ゆっくり噛みしめて食べたり、食事を楽しんだりしているので、食事時間のことについてはあまり細かく伝えないで様子を見てきた。
- ・ 健康に配慮しなければいけない方については、給食の油物を少し減らしたり、ソース・醬油をかける量を減らしたりして支援を行った。
- ・ 食事後、食堂の床の雑巾がけを利用者さん全員の当番制で行ってきた。進んで取り組める利用者さんが多かった。

(4)健康管理及び安全

利用者さん一人ひとりの健康を維持し、体力の向上を図るために、次のような支援をしてきた。

- ・ 日常生活の衛生面においては、手洗い、うがい、歯磨き等の励行を強力に進めてきた。ドアノブや手すりなど頻繁に触れる場所は、週1回の消毒を行ってきた。今年度は一人もインフルエンザにかかることがなく済んだ。
- ・ 口腔衛生指導員を呼び、歯の健康についての説明や歯の磨き方を分かりやすく教えてもらい、歯磨きに対する意識の向上が図れた。
- ・ 朝のラジオ体操・ストレッチ運動・散歩は毎日欠かさず実行できた。
- ・ 心の悩みを訴える利用者さんには定期的に話を聞いたり、表情や身体の変化が見られる利用者さんには職員から積極的に話し掛けたりして、その対応を図った。心の病はすぐには改善されないため、主治医との綿密な連携や職員による傾聴など、必要に応じて対応を考えていかなければいけない。
- ・ 通所のための自転車利用者に対しては、帰りの会等で毎日のように交通安全注意を呼びかけてきた。交通安全教室などを実施したかったが未実施となったため、次年度は実施したい。

- ・ 地震（津波）及び火災を想定した避難訓練を毎月1回実施し、安全で迅速な避難ができるようさまざまな場面での「予告なしの訓練」を行ってきた。今年度は今までで初めて、竜巻が発生した場合の避難について実施した。事前にみんなと避難方法を話し合い、月日が経ってから突然の訓練を行った。突然にもかかわらずしっかり覚えていて、自ら避難できる方もおり感心した。

11月17日は、磐田市消防署の協力を得て総合防災訓練を実施した。本所と作業棟それぞれで通常の屋外への避難を行った。また、職員による通報訓練や全員で煙の中の避難訓練を実施し、災害への対応を学んだ。

- ・ 法人各施設から防災担当者を組織し、毎月の会議の場で、「大規模災害時の対応マニュアル」の見直しや「緊急時安否確認名簿」の更新などを実施している。

(5)委員会活動

利用者さんの生活・健康管理並びに安全・環境整備等について、松ぼっくりと協力して委員会を設け、協議や活動を行ってきた。

① 生活・保健衛生委員会

- ・ 健康診断の実施（4月30日、10月22日）

レントゲン、採血、嘱託医による問診、保菌検査（年2回）

身体測定（身長・体重）・検尿と血圧（潮の香で実施）、体重については毎月実施し、連絡帳の表に記入し家庭にお知らせした。

- ・ 個人の衛生面への配慮

入浴、洗顔、洗髪、整容、うがい、手洗い、歯磨きなどの励行と、家庭との連携を図ったがまだ十分ではなかったため、引き続き働きかけていく。手洗い・うがいは外出後、毎回必ず行い点検も実施してきた。歯磨きは食後に行い、磨きが苦手な方には職員が手を貸してきた。出来たら表に印を付けるように決め、意識を高めている。

ハンカチの所持やトイレでの靴の履き替えについては常に声掛けをしてきたが、十分ではなかった。

- ・ 職員研修会の中で、感染症について事例を基に学んだ。
- ・ 保健だよりを発行し感染症の予防を早めに呼びかけた。

② 環境美化委員会

家族の方の協力を得て、6月27日、12月5日に奉仕活動日を計画し、本所と作業棟に分かれ作業室・食堂などの清掃・整理・ワックスがけ等を行い、環境美化に努めた。また、気持ちよく通所できるように、花の世話や草取りなどを利用者さんと一緒に行ってきた結果、自ら進んで水やりや草取りをしてくれる利用者さんも見られるようになった。

③ 安全委員会

- ・ 会議や朝のミーティングなどで事故防止に関する話し合いを適時行った。
- ・ 毎月1回施設内外の設備点検を行い、不良箇所の修正に努めている。
- ・ 事故報告書やヒヤリハット報告書への記録と公開をした。
- ・ 施設内外の危険箇所について事前アンケートを職員にとり、それを基に情報交換や改善策を話し合い、身近な危険の防止を図った。

4 行事・バザー報告

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	野外活動Ⅰ（花見）(3) 家族懇談会(18)		○					
5	お話の会(8) 地域交流会(17)		○	○	地域交流会バザー(17)			○
6	大掃除(27) 野外活動Ⅱ（ニュースポーツ）(23)	環境美化委員会	○		ヤマハジャンボリー(2)			
7	お話の会(10)			○				
8	口腔衛生講座(12)							
9	活動参観及び懇談会(2) お話の会(11)		○	○				
10	野外活動Ⅲ（ウォーキング）(9)		○					
11	調理実習（スイーツ作り）(1) ふれあいのスポーツ広場(9) お話の会(13) 野外活動Ⅳ（ミニ旅行）(20) ヤマハ労連観劇(28)		○	○	ふくでふれあいまつり(3) フェスティバル豊田(3) 光る子まつり(16)			
12	大掃除(5) クリスマス会(25)	環境美化委員会	○					
1	初詣・新年会(6) お話の会(8)			○				
2	豆まき(3) 個別面談	担当・サビ管	○					
3	個別面談 野外活動Ⅴ（工場見学）(3) お話の会(12) ボランティアさんに感謝する会(23)	担当・サビ管	○	○ ○				
他	4～11月 ひろ道ウォーク実施 BDショッピング（誕生月実施）							

5 職員研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。主に、水曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修5回、内部研修会1回の計6回の研修活動を実施した。

今年度は、虐待防止委員会の立ち上げによる研修を幾つか企画、実施したり、地域生活支援事業の勉強会を実施したりと、職員の資質向上に努めた。また、感染症が拡大してしまう事態になったことで、研修会を開きそれぞれの職員の動きや施設としての対応など、今後の職員の意識の在り方や福祉施設の在り方などを改めて考える機会とした。

次年度からの活動にも、問題提起できるような内容を盛り込み、更なる支援の質の向上を図りたい。

<活動内容>

日付	内容	担当者
7/9	地域療育センター・地域生活支援事業・グループホームの事業報告、理想の職員像（グループワーク）、理事長の話（合同研修会）	各担当者
8/27	グループホームでの嘔吐・下痢症について、感染症について、理事長の話（合同研修会）	研修担当者 生活・保健委員会
9/3	虐待防止法・差別解消法について、権利条約について、事例検討、ノーマンクンツ「支えの信条」読み合わせ、理事長の話（合同研修会）	研修担当者
11/5	地域支援について、理事長の話（合同研修会）	地域生活支援担当者
3/5	危険事項検討会（潮の香独自）	サービス管理責任者
3/11	危険の予測と回避（グループワーク）、「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き」読み合わせ、松ぼっくり所長の話（内部研修会）	安全委員会
3/28	自己評価について、人権擁護・虐待防止委員会より（グループワーク）、理事長の話（合同研修会）	研修担当者 人権擁護・虐待防止委員会

6 地域生活支援

地域生活支援事業やライフサポート事業を利用して申し込みのあった、施設利用者さんや地域の方の時間外や休日の支援を法人内他施設と連携して受け入れた。

7. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

各相談事業所や市町の担当者と連絡をとりながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、在宅生活を支えるための各支援について、特別支援学校卒業後の進路等について相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

8. 中遠地域自立支援協議会（磐田市、袋井市）

知的・身体部会には、「こども部会」「進路・就労部会」「地域生活支援部会」「防災部会」「重心部会」の各専門部会があり、その中の「地域生活支援部会」には、課題別に「グループホーム・ケアホーム」「ショートステイ」「相談支援事業から見える在宅支援」「自閉症等在宅支援」の各検討会があり、福浜会からは担当を決め積極的に参加した。「地域生活支援専門部会」のまとめ役「重心部会」「防災部会」「自閉症等在宅支援検討会」の各担当を福浜会が行っている。今年度は5回の知的身体部会に出席した。

平成26年度指定特定・障害児相談支援事業所「結」 事業報告

1. 平成24年10月より磐田市の認可を受けて実施する。

(1) 事業概要

障害者（児）の自立した生活を支え、障害者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する。

(2) 対象者

- ・ 障害福祉サービスまたは地域相談支援を利用するすべての障害者
- ・ 障害福祉サービスを利用するすべての障害児

(3) 対象地域・・・磐田市、袋井市、掛川市、浜松市

(4) 内容

①計画相談支援

○支給決定時（サービス利用支援・障害児支援利用援助）

- ・ 支給決定又は支給決定の変更前に、サービス等利用計画・障害児支援利用計画（以下、「計画」という。）案を作成
- ・ 支給決定又は変更後、サービス事業者等との連絡調整、計画の作成

○支給決定後（継続サービス利用支援・継続障害児支援利用援助）

- ・ 厚生労働省令で定める期間ごとに、サービス等の利用状況の検証を行い計画の見直しを行う（モニタリング）。
- ・ サービス事業者等の連絡調整、支給決定又は支給決定の変更に係る申請の勧奨。

②基本相談支援

- ・ 障害者や障害児からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等の他、必要な便宜を供与する支援

2. 平成26年度を振り返って

- ① 磐田市では平成27年3月末までに、サービス利用者のほぼ110%の方に計画相談を実施している。サービスの支給期限や区分の認定期限が切れる時期に計画相談を入れる方法をとっている為、対象者の多い月は一事業所でやり切れる数を上回る依頼があった。依頼の比較的少ない月との計画作成数の格差が目立った。
袋井市でも100%に近い方の計画相談を実施しているが、特にサービス支給期限の切れる割合の多い3月の対象者は、次回より誕生日に切り替えて対応するなどの方法をとっている。
- ② 計画作成後も自宅訪問、家族支援等の相談支援が必要となるケースもあるが、前年度に引き続き、市の委託を受けている一般相談の事業所や就労・生活支援センター、または地域包括支援センターや介護保険のケアマネジャー等と連携しながら対応することが多かった。
- ③ 児童の場合は、利用している事業所の相談支援事業所に計画を依頼している方も多く、結では「あにまあと」の放課後等デイサービスを利用している方の計画が中心となっている。
- ④ 中遠自立支援協議会の中で相談支援専門員連絡会があり、磐田市と袋井市合わせて12カ所の相談支援事業所が参加している。平成26年度は5回の連絡会が開催され、各事業所の抱える課題の検討や、行政との計画に関するすり合わせ作業などが行われた。

平成26年度の計画作成数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成	5	6	7	18	12	13	2	5	5	5	16	25	119
(児童)	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	6
合計	6	8	7	18	12	13	2	5	5	7	16	26	125
モニタリング	4	7	13	11	18	39	6	8	12	25	21	35	199
(児童)	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	8
合計	5	8	14	12	18	39	7	9	13	25	21	36	207

平成26年度地域療育支援センター「結」 事業報告

1. 平成26年度の状況

登録者数 5人

在宅支援訪問療育等指導事業 実人員 4人 延べ回数 5回
 在宅支援外来療育等指導事業 実人員 3人 延べ回数 3回
 施設支援一般指導事業 0回

2. 内容については

- ・福祉サービスの利用援助・情報提供
- ・日常生活に関する支援
- ・就学に関する相談支援・情報提供 など

3. 地域療育支援センター事業の廃止と療育三事業について

県からの委託を受け今年度も引き続き事業を行うこととなった。

以前はまぼうに見学にみえたが、その後の生活状況把握ができなかった方の様子伺いを兼ね訪問し就学に関する相談を受けたり、福祉サービスについての情報提供目的での訪問も何度かあった。重心（重症心身障害を持った方）の相談も増えている。なかには日常生活における障害福祉サービスに関する不安・不満を訴える方もおり、内容は幅広いものとなっている。

サービス等利用計画の作成が進み、相談支援事業所との情報交換の必要性も感じている。

平成26年度 地域生活支援事業活動報告書

静岡県及び各市町が定めた「地域生活支援事業」及び「障害児者ライフサポート事業」実施要綱等に基づき、3市1町の委託を受けて地域生活支援事業・ライフサポート事業・福祉有償運送を実施。利用者さん等からの依頼を受け、必要に応じた地域生活支援サービスを提供することにより、障がいのある人やその家族が地域で安心して生活できるための支援を行った。

今年度実施したサービス内容等は次のとおり。

1. 提供サービス内容

地域生活支援事業（提供市町村：磐田市、袋井市、掛川市及び森町）

日中一時支援事業

移動支援事業（袋井市：外出介護事業）

ライフサポート事業（提供市町村：磐田市、袋井市及び森町）

ヘルパー派遣（自宅等での支援、外出支援、送迎サービス）、デイサービス

福祉有償運送（提供市町村：磐田市、袋井市及び掛川市）

2. サービス提供時間

原則として6：00～22：00で対応し、支援を実施した。早朝や夜間の支援依頼はほとんどなかった。依頼の内容は、そのほとんどが8：00～19：00の時間内に集中していた。

3. 利用状況

施設利用者さんや特別支援学校の生徒さんからの依頼が中心だった。新規の依頼も、増加傾向にあり、施設見学や面談をその都度実施して、要望をお聞きした。契約するにあたっては受け入れ体制の整備をしてから対応している。そのために新規登録ヘルパーの採用や、法人内施設の職員体制についての相談をして対応した。

移動支援に関しては、その目的に沿い、余暇活動の充実のための支援を行なった。健康維持のための散歩の依頼や、公共交通機関を利用しての外出の依頼があった。

緊急的な対応としては、家庭の事情で夜間利用者さんをショートステイサービスを提供している事業所へ送る支援を行なった。

特別支援学校の長期休暇時には、毎年のように依頼が増加傾向にある。

菊川市の方から、相談支援事業所を通して相談はあったが、市との契約などもしていなかったため、支援には至らなかった。東遠地区からの依頼は数件あったが、地域の相談支援事業所と情報交換をしながら、地域での受け入れを基本にしながらも必要に応じて受け入れる方向で考えていった。

4. その他

土、日曜日や祝祭日などの施設の閉所日の支援に関しては、ヘルパーさんに依頼をしていることが多いため、その時に、大災害等があった場合の対応について、法人としての検討を進めている。

また、大きな事故や利用者さんに怪我などはなかった。支援の内容などについて、問い合わせが数件あり、その都度ご家族へ説明してきた。

利用者さんのお迎えの時間に間に合わないことがあった。また、職員同士の連絡がうまくいかず、ご家庭の依頼内容に沿えないことがあり、謝罪することがあった。

別 表

H26 地域生活支援事業 月別実績件数

磐田市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H25
ライフポート	83	103	81	101	32	100	88	88	86	81	78	68	989	905
日中一時	200	214	218	241	258	263	230	196	199	174	300	198	2691	2215
移動支援	5	6	4	6	5	7	6	5	3	4	5	0	56	78
合計	288	323	303	348	295	370	324	289	288	259	383	268	3736	3198

袋井市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H25
ライフポート	31	33	45	39	19	45	48	44	39	41	35	35	454	206
日中一時	80	60	78	86	76	93	84	78	81	73	60	81	930	932
外出介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	9
合計	111	93	123	125	95	138	132	122	120	114	96	116	1385	1147

森町

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H25
日中一時	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	2
外出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	2

掛川市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H25
日中一時	9	13	12	8	6	13	11	11	12	7	11	11	124	33
合計	9	13	12	8	6	13	11	11	12	7	11	11	124	33

平成26年度 共同生活介護事業「汐風」活動報告

～ 全体を通して ～

6月下旬に各ホームで入居者さん、またはそのご家族にまで感染性胃腸炎が疑われる嘔吐や下痢の症状がみられた。感染が拡大したと思われる経緯や詳細、事実として把握していることを、ホーム内、日中活動施設、ご家族といった関係機関へ状況報告し、消毒処置、特定のホームの利用の一時停止、場合によっては自宅への一時帰宅（一定期間）などの対応をしたが、十分ではなかった。磐田市福祉課、障害福祉グループ職員が来訪して聞き取り調査が行なわれた他、県本庁障害指導班まで、厚生労働省からの通知と報告書様式に沿って報告をした。この件に関し、一部のご家庭からも県への報告があり、12月22日に行なわれた実地指導の際にも指摘がなされた。

1. 入居者さん及び各ケアホームの状況

ケアホームは4ヶ所すべてのケアホームも大きな事故等はなく、生活を送ることが出来た。大規模地震災害を想定した避難誘導訓練を実施した。

【汐 風】

入居者さん同士の関係性についてクローズアップされることが多かった。通所する法人内施設との情報交換を行ないながら、必要な助言や相談などを行ない、入居者さん同士の良好な関係が構築されるように配慮した。安心して暮らせる生活空間の確保のため、世話人や職員との連携の他、ご家族からのご要望に対して傾聴することがあり、今後の支援にあたり、ご家族との密な相談の必要性を改めて感じさせられた機会となった。

【あしたば】

全身性障がいのある入居者さんの地域生活支援事業を利用した通院や買い物などの依頼が定着した。また、その方の母親が亡くなられ、法事やお墓参り、相続などの各種手続き等も法人の職員で対応した。

クリスマス会や外出など、その時期に合わせて入居者さんと世話人とが共同で外出や料理作りの企画を起案し、実施した。

あしたば会（入居者さんのご家族で構成されている会）からのご要望もあり、地元の御殿夏祭りに久しぶりに参加できたことが有意義だった。

【日 和】

世話人さんの平日夕方方の出勤時間を1時間早め、15:00とすることで、通所施設から帰ってから共同の部屋の出入りがスムーズにできるように、また、入居者さん同士、良好な関係が構築されるように配慮した。

水曜日の午後の時間を利用して、日頃行なえない掃除を実施するなど業務内容の見直しを図った。

自動車免許を取得した入居者さんがおり、来年度4月以降の一人暮らしの実現に向けて、本人と必要な事柄を相談しながら話を進めてきた。

【みぎわ】

365日開所のホーム。身寄りがない方もいるため、時期に合わせて楽しめる行事を行ってきた。例えば正月にはおせち料理を振るまい、皆さんでおいしくいただいた。

外出を楽しみにしている方もいて、その外出に必要な手配（参加の用紙への記入、タクシーの手配やバス時刻表の確認と持ち物の確認など）をした。地域へ出かけ、充実した余暇を過ごした。

買い物に関しては、その都度必要性について考慮し、電気製品など高額な物については慎重に本人と相談しながら購入した。

2. 世話人体制

汐風、日和、みぎわは世話人一人体制で。あしたばは、全身性障がいの方がいるため、時間帯によって2人体制で行った。日和の宿直は週2回で対応をした。日和以外のグループホームの夜間体制は、毎日1名が宿直している。また、支援者、宿直者の不足に伴い、バックアップ職員や、世話人に入ってもらするなど全体でフォローして行った。

また、週末、ホームに入居者さんが留まる事があり、状況に応じて、世話人の勤務体制を整えるなどの対応をした。

3. 健康管理

毎朝のバイタルチェックとして検温を行い、健康管理に留意した。

高血圧が気になる方には、定期的な通院の支援と毎日の血圧チェックをした。食事に関しては、肥満等の予防も兼ね、栄養バランスなど考えた世話人の手作り料理を提供している。服薬については、ホーム毎にその方法を決めて取り組んだ。

体調不良など、普段と違う様子が見られた際には、日中活動の施設の職員とその都度相談し、ご家族と相談して、その後の対応をした。

就寝前後、起床前後のエアコンのスイッチON⇔OFFや温度調節などを行った。

また、時間を見つけ、入居者さんと散歩に出かけ、体力維持、運動不足解消を図る機会とした。

4. 活動起案書による余暇活動

入居者さんより、外出や交流会の希望が出て、世話人と相談し、それぞれのグループホームで計画を立てて実施した。また、外出に行かないホームでは、普段の食事提供ではなく、好きな物を購入して食卓を囲むなど、余暇活動の充実を図った。

5. その他

世話人とバックアップ職員と定期的に話し合いを行い、ケース、問題等の確認をしたが、世話人との情報の共有が難しい面もあり、課題であった。また、バックアップに入ったときに世話人との情報交換なども行った。

世話人に対しては、法人の理念や目的にそって研修等を重ねながら、基本的な関わり方、業務の流れの理解を大事にしながら、それぞれの世話人が同じ方向を向いて支援にあたってもらうように話をした。

防災対策については、法人内の各施設等の防火管理者とも協力しながら、大災害などに備えた内容に見直していく必要があり、法人の防災関係者が会議を行い、定期的に災害時の対応を検討し、見直しをしている。そのなかで必要な物品をそれぞれのホームへ購入した。非常食についても整備をし、飲食料を世話人分含めて3日分を用意した。また、MCA無線機、トランシーバーの活用も世話人へ伝えた。定期的に災害時対応訓練（避難訓練等含む）を行なって、世話人が取るべき行動を意識付けている。